地域社会への貢献と持続可能な社会へむけて

75th

Environmental Report

環境経営レポート 2024

ダンボール／総合包装

コムパックシステム株式会社

COMPACK SYSTEM CO.,LTD

75th Environmental Report

CONTENTS

ページ

01- Top Message 2024
02 -会社概要　事業概要
03 -Purpose/Vision/Misson
04 -History (Environmental aspect)
06 -環境マネジメントシステム
07 -Vision2030
08- Material balance
09 -エネルギー使用量推移
10 -エネルギーコスト/産廃処理金額
11 -The Goal 環境目標
13 –Action Plan 活動計画
14 -2024年度 活動実績と評価（一覧）
17 -2024年度 活動実績と評価（個別）
24- 持続可能な社会へ向けた取り組み（~2024）
30- 環境関連法規
31- 代表者による全体評価と見直し

長野県上田市
（棚田から望む上田市内方面）

表紙は信州上田の戦国武将 真田氏の家紋「六文銭」と澄み渡った長野の青空をイメージしています

2008年からスタートしたエコアクション２１

サスティナブルな社会づくりと地域・社会に貢献

同時に付加価値の拡大と企業発展を目指す

Company growth

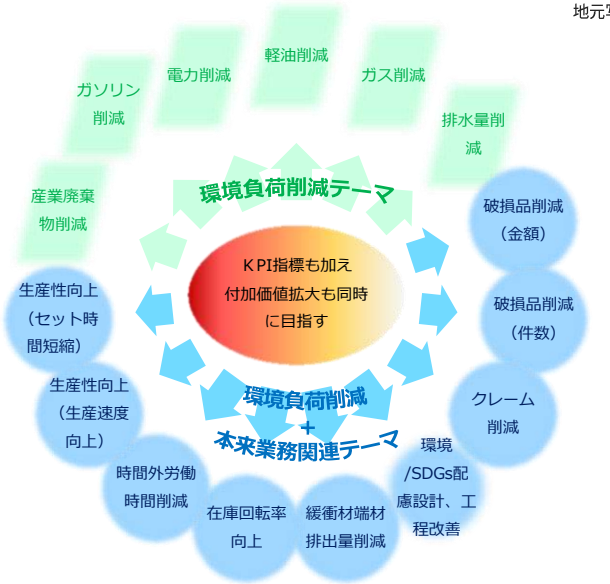
ダンボール／総合包装
コムパックシステム株式会社
COMPACK SYSTEM CO.,LTD

X

Sustainable Contribution to Society

エコアクション21
認証番号0003060

持続可能な社会づくりと企業の力を向上させる 15の環境目標



75期 Topics

地元写真家個展でのパネル製作（環境配慮の新用途）

産廃から再生品の原材料へ転換（通期で実施）

エコアクション21オブザイヤー「ソーシャル部門」金賞「環境経営レポート部門」銀賞

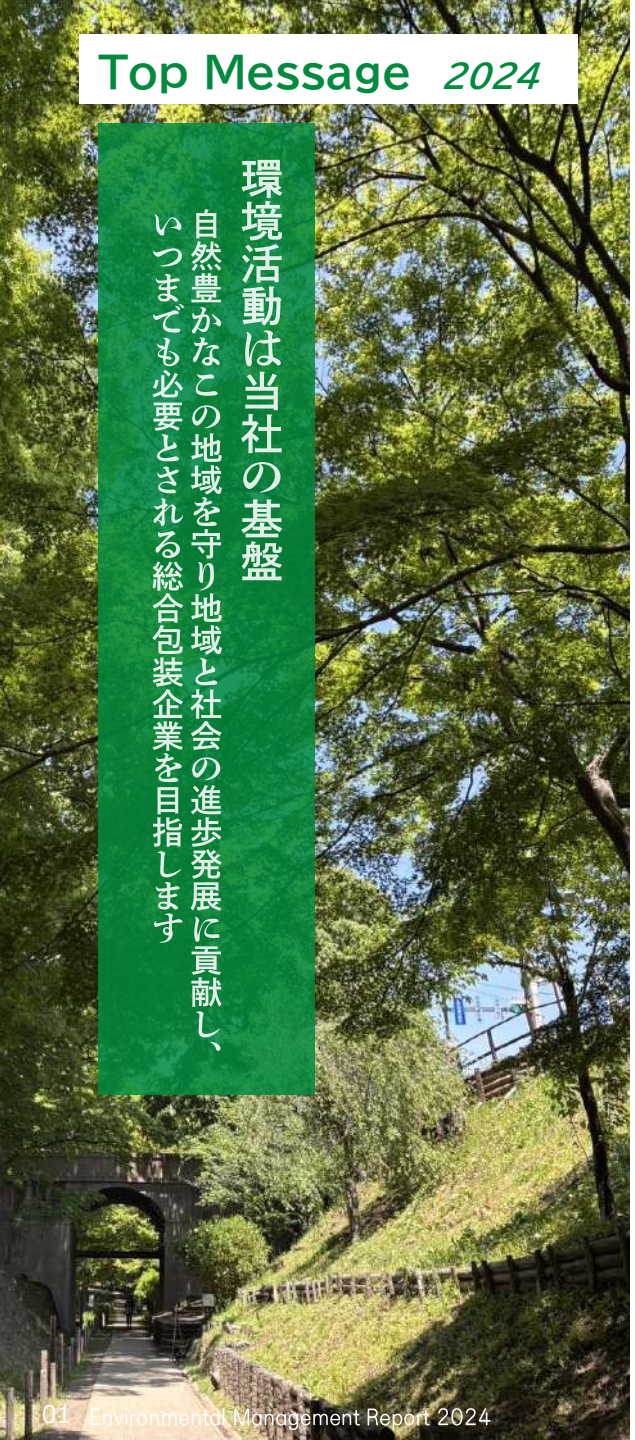
地元のイベント参加（災害支援事例紹介）

第18回キッズデザイン賞受賞

地元の大学、高校との環境/SDGsコミュニケーション活動

健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）認定

環境負荷削減に貢献する設備投資



Top Message *2024*

環境活動は当社の基盤

自然豊かなこの地域を守り地域と社会の進歩発展に貢献し、
いつまでも必要とされる総合包装企業を目指します

当社は1950年（昭和25年）に長野県上田市において、旧専売公社（現日本たばこ産業㈱）上田工場建設に伴い、たばこ輸送用木箱納入業者として創業いたしました。それ以来75年にわたり地域と地域の皆さまのご支援のもと、時代と共に包装に求められるニーズも変化していく中で、現在では主要製造品目である一般ダンボールに加え、木箱に代わる強化ダンボール（ハイプルエース®）、精密機器を外部衝撃から保護するための高機能発泡緩衝材（サンテックフォーム®）、その他輸送包装に関する各種包装資材等を地域の皆様にご提供する総合包装メーカーとして発展してまいりました。

長野県は自然豊かな農業が盛んな地域であることから、春から秋にかけては収穫したての果実や野菜等を市場や消費者まで安全に梱包・輸送するためのダンボールケースや、当社が位置する長野県東北信地域は歴史的にものづくりが盛んであった地域特性から、精密・機械・電気機器等の工業製品を国内のみならず世界各国へ安全にお届けするための包装設計業務から商品提供までの一貫した業務展開を行ってまいりました。

ところが、近年特に顕著になってきた地球温暖化を要因とした毎年の異常気象により、当社の基盤であった青果物関連事業に大きな影響を与え続けております。例えば一昨年は、酷暑の影響で長野県の代表作物であるリンゴの収穫量が過去最低となり当社の段ボールケースの受注にも多大な影響を及ぼしました。経験したことのない夏場の酷暑をはじめ、季節外れの災害等が毎年のように発生しておりこのような青果物関連製品の受注減少・災害を要因とした地域経済への影響・労働環境の対応変化等、今後の企業経営への課題が山積しております。

　当社の事業は完全受注産業であり徹底した地場産業であります。「地域社会の安定と発展がなければ当社の発展もない」という認識のもと、日々の事業活動に加えて将来を見据えた「社会/環境/経済」面からのSDGsの貢献にもつながる活動も推進しております。レポート内でも記載しておりますが、この状況を何とかしなければ当社の将来はない、という意識のもと、2018年より『Vision2030』という中長期ビジョンをを掲げ、あらゆる側面から持続可能性に貢献していく、そして自分たちが生活している「地域と自社を守る」ということを社員共有認識としております。

当社のような地域の中小企業が取り組んだところで何も変わらないのでは・・、と当初は思ったこともありましたが大企業や中小企業というカテゴリーではなく、大切なのはそれらを構成している１社、さらに言えば一人一人の意識・行動変化であり、その流れを自社から地域の人々との連携へ広げ、それをまたもっと大きな連携へ・・・としていきたいと考え日々無理なくできる活動を地道に進めていこうと考えております。環境コミュニケーション活動報告でも記載しておりますが、そのような地域の人々やステークホルダーとの連携を手探りですすめてきたことで、思わぬ効果を生み出せたり、より大きな成果を発揮することができてまいりました。

コミュニケーション活動をより積極的にすすめることで地域貢献度向上とより大きな環境負荷削減の達成へ

2008年にエコアクション２１の認証を取得し、当初は主要な環境負荷削減活動しか行うことはできませんでしたが、そこから実務に直結したより具体的な活動や付加価値拡大に直接影響を与えるような活動も盛り込み、そして現在は他者とのコミュニケーション活動を大切にしながら試行錯誤の連続ではありましたが17年の歳月が経過いたしました。それらの活動内容を本レポート内に記載しております。当社をこれまで支えていただいたすべてのお取引様、地域、従業員の方々に目を通していただき今後のさらなる環境活動発展のため、そして地域企業の1社として環境保全活動と持続可能な社会づくり、地域・社会貢献に取り組んでまいります。
今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

コムパックシステム株式会社
代表取締役社長　鈴木由彦

Corporate Profile

会社概要

（2025年3月31日時点）

会社名	コムパックシステム株式会社
	本社工場　〒386-0041 長野県上田市秋和940
	塩田工場　〒386-1211 長野県上田市下之郷263-1
創業	1950年（昭和25年）12月11日
代表者	代表取締役社長　鈴木由彦
URL	https://compack.co.jp/
環境活動期間	2024年4月1日～2025年3月31日
対象範囲	本社工場および塩田工場
環境担当者	環境管理責任者　代表取締役社長　鈴木由彦
	環境担当　担当連絡先　取締役営業部長　北沢寿男
	事務局担当者　総務経理課係長　土屋康太
床面積	3,665㎡
従業員数	36名

Information

【社名の由来】コムパックシステムとは!?

1950年日本専売公社上田工場のたばこ輸送用木箱納入業者として創業（社名：上田企業株式会社）。その後木箱からダンボールへの転換に伴い現本社工場地にダンボール工場を建設。1985年に地元包装資材企業と合併。ダンボールのみならず緩衝材・強化ダンボール・各種資材までも扱う総合包装企業として地域に貢献すべく社名を現在のコムパックシステム株式会社に改称。

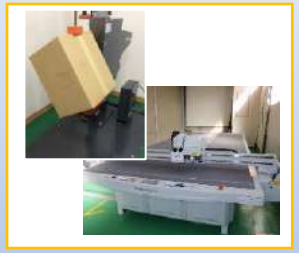
・COM＝コンビネーション（組み合わせを意味する）
・PACK＝パッケージング（包装を意味する）

様々な包装材を”適材適所”に組み合わせ、最適な包装形態をお客様にご提供することを目指し，
単なる資材加工企業ではなく最適最良のご提案をしていくパッケージングコンサルティングサービス企業の一面を併せ持っています。
それらのハード面とソフト面の要素を組み合わせお客様の発展に貢献していく企業組織（システム）です。
おかげさまで創業75年を迎えることができました。

事業内容

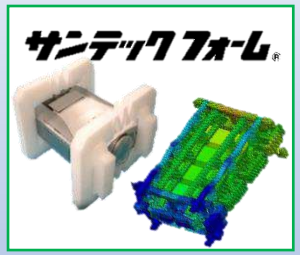
総合包装企業として多様な資材からお客様ニーズに合わせたサステナビリティに貢献する最適なパッケージとサービスをご提供します

包装設計/評価試験/試作品製作



量産前の試作はもちろん、３軸加速度センサーによる各所の衝撃値の測定や衝撃波形データに基づいた許容衝撃値の確認、試験後の製品破損や変形などを確認し最適包装を追求します。

高機能発泡緩衝材/設計シミュレーション

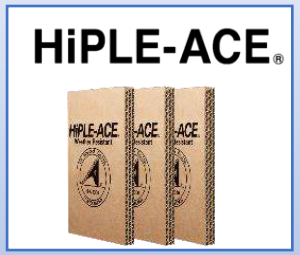


優れた特性から精密機器の緩衝材をはじめ、電子部品や自動車部品の通函内装材など、様々な分野・用途で活用されています。シミュレーション技術での設計も可能です。

一般ダンボール

様々な分野のお客様の大切な商品を“やさしく包みこむ”、環境とコスト面に優れた包装資材「リサイクルの優等生」当社の主力商品です。

強化ダンボール



衝撃吸収性による抜群の強度、軽量によるフレートコストの軽減、積載効率アップによる経済性など数多くの優れた品質特性が物流全体の合理化を図ります。強化ダンボールの代表格。

各種包装資材

“環境”と“サステナビリティ”に応えるため、輸送包装に必要な様々な商材をラインナップ。お客様の多様なニーズにお応えします。

新用途商品開発

既成概念にとらわれず資材特性を最大限活用した新商品開発に取り組んでいます。環境ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ活動での他者との連携により地域・社会貢献につながる新たな取り組みを進めています。

存在意義 Purpose /Vision/Mission

パッケージング事業を通じて地域と社会へ貢献し、社員の幸福度向上につなげる

地域と社会への貢献
社員の幸福

経営理念
お客様満足度向上に努め社員と企業が共に成長し地域社会の進歩発展、持続可能な社会づくりに貢献します

創業以来の社訓
一、 健康で明るい職場を作ろう
一、 礼節を守り信義と愛情の人となろう
一、 創意工夫と能率増進に努めよう
一、 自己の責任を完遂しよう
一、 良い製品を廃棄で幸せしよう

経営ビジョン（中長期的将来像）
ソフト（知恵・知識）とハード（製造工場）両輪を磨き総合包装メーカーとして「地域オンリーワン企業➡市場シェアNO.1」を目指す

新中期経営計画（76～78期）
～前中期経営計画成果の基盤固め～

基本方針
1 長期利益獲得へ向けて他社との"違い"創り
2 持続可能な社会へ向けた商品提供と会社づくり（ESG）
3 地元東北信地域企業への深掘り＆地域社会への貢献
4 付加価値力向上に向けた取り組み強化

目指す数値目標　【重点管理項目】

TOTAL PACKAGING Compack System

理念経営の追求

当社は経営理念（存在意義/パーパス）として「お客様満足度向上に努め、社員と企業がともに成長し地域社会の進歩発展、持続可能な社会づくりに貢献します」と謳いその理念達成に向け75年にわたり事業活動を行ってまいりました。
お客様に喜んでいただける総合包装企業であり続けられるためには、社員一人一人がやりがいを持ち高いモチベーションがあるからこそ企業が成長できると考えております。さらに「企業は人なり」の精神のもと社員が高いモチベーションを持ち続け、幸せな人生を過ごせるような職場環境づくり、社員満足度を高める取り組みを推進することが、お客様満足度向上にも大きくつなげられると考えます。
来期より新中期経営計画を策定し、理念に基づく基本方針、活動施策を設定し取り組んでまいります。
長期利益の獲得に向けた当社独自の付加価値提案を提供し持続可能な社会と会社づくりを目指してまいります。同時に地域と社会への貢献度を向上してまいります。地域に育てられた企業として地域への還元・貢献を重要視してまいります。

（2008～）環境経営スタート

自社中心の取組から環境保全を強く意識した活動への転換

エコアクション２１

エコアクション21
認証番号0003060

基盤は「環境」
環境が全ての根底にあり、その基盤上に社会経済活動がある。
（環境が壊れれば社会不安定になり、経済成長もない）

2008年、EMSであるエコアクション21を認証取得して以来、環境経営への取り組みを継続的にブラッシュアップ。2019年より国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを経営に組み込みました。環境面のみならず社会面・経済面への配慮と貢献を念頭に社会の一員としての責任と義務を果たしていまいります。将来のリスクとチャンスを見極めることで今後の経営に活かしてまいります。

（2019～）サステナビリティ経営スタート

環境のみでなく社会や経済面への配慮も強く意識した企業経営への転換

＝Vision 2030＝

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

＝SDGs達成に向けた経営方針＝

弊社の企業理念「お客様満足度向上に努め社員と企業が共に成長し、地域社会の進歩発展と持続可能な社会づくりに貢献する」は、人や環境に配慮し社会が求める製品やサービスを持続し提供することで、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、全社員がそのことを自覚し、各自の役割をはたすことによりSDGsの達成に貢献していきます。

1. **温室効果ガス CO2排出量 20%削減(CO2/百万円)**
   2018年: 163.6kg-Co2/売上(百万円)
   ↓
   2030年: 131kg-Co2/売上(百万円)
2. **事業活動における産業廃棄物排出量の20%削減(kg)**
   2018年: 10,564kg
   ↓
   2030年: 8,451kg
3. **労働生産性の向上 有給休暇取得率向上**
   2018年: 57.1%
   ↓
   2030年: 75.0%以上

次世代へよりよい社会と環境をバトンタッチ

History 環境活動のあゆみ

Environmental aspect

「Vision2030」も残り5年を切りすぐ眼前まで！

1949年木箱製造業として産声をあげ、時代とニーズの変化にあわせダンボール製造業、そして総合包装企業として進化発展してきました。

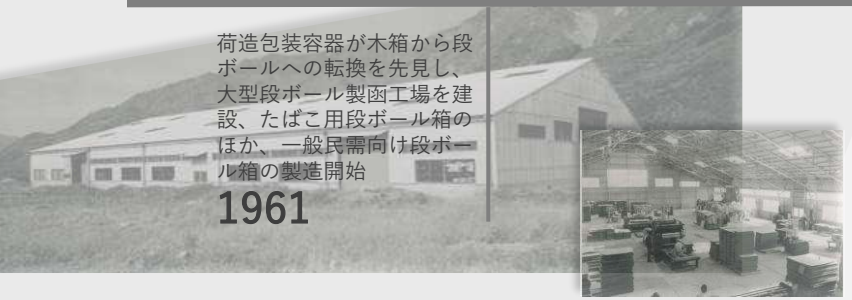
2008年,EMSエコアクション２１を認証取得し環境経営に本格的に取り組み始め、2020年から社会と経済への影響度を考慮したサステナビリティ経営へと舵をきりました。ここまでの取組んできた取り組みと成果をまとめています。

1949
大蔵省(現 財務省)専売局上田たばこ分工場創業に伴い、たばこ包装用木箱納入業者、「上田企業㈱」として創業

1985

地元包装資材メーカーと合併。
社名をコムパックシステム株式会社と改称。
2工場体制として第二創業期スタート。

環境経営スタート



荷造包装容器が木箱から段ボールへの転換を先見し、大型段ボール製函工場を建設、たばこ用段ボール箱のほか、一般民需向け段ボール箱の製造開始

1961

2012
本社工場に太陽光発電設置（日中、事務所電力に使用。余剰分は売電）
本社工場、事務所照明をLED化

2008
環境マネジメントシステム
エコアクション21認証取得
認証番号0003060

エコアクション21 認証番号0003060

2013
塩田工場に太陽光発電設置

2014
環境貢献開発商品が「2013日本パッケージングコンテスト」輸送包装部門賞受賞
Asia Star2013 同時受賞

環境貢献開発商品が「2014日本パッケージングコンテスト」最上位ジャパンスター受賞
Asia Star2014 同時受賞

2015
環境貢献開発商品が「2015日本パッケージングコンテスト」工業包装部門賞受賞
Asia Star2015 同時受賞

2017
塩田工場太陽光発電パワーアップ

2018
環境貢献開発商品が「2018日本パッケージングコンテスト」輸送包装部門賞受賞
Asia Star2018 同時受賞

環境貢献開発商品が「2017日本パッケージングコンテスト」 工業包装部門賞受賞

世界最高峰包装コンテスト：ワールドスターコンテスト2018 受賞

FSC ®森林認証取得

第21回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞

2019
第22回環境コミュニケーション大賞「優秀賞」受賞

長野県SDGs推進登録企業登録（第2期）

環境負荷低減を目的とした最新型 廃液処理施設導入

サステナ経営スタート

2021
ワールドスターコンテスト2021受賞
Asia Star2020 受賞

2023
「エコアクション21オブザイヤー2022」銀賞受賞

環境貢献開発商品が「2023日本パッケージングコンテスト」 工業包装部門賞受賞

2024
「エコアクション21オブザイヤー2023」優良賞受賞

R4年度「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ表彰」において名工・匠部門大賞受賞
【ナッツロール開発】

第18回キッズデザイン賞受賞

残り5年
＝2030年はすぐそこまで＝
Vision 2030

企業と健全な社会を次世代へ引き継ぐための施策を一歩すつすすめる

環境貢献開発商品が「2020日本パッケージングコンテスト」 輸送包装部門賞受賞

第22回「信州エコ大賞」企業賞受賞

2020

第23回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞

R2年度「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ表彰」において特別賞受賞
【ダンボール製ベッド・間仕切り】

「エコアクション21オブザイヤー2021」金賞（環境大臣賞）受賞

R3年度「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ表彰」においてSDGs部門特別賞受賞
【ダンボール製什器開発】

2022

「エコアクション21オブザイヤー2024」
・ソーシャル部門金賞（環境大臣賞）受賞
・環境レポート部門銀賞受賞

2025

環境活動に関係する外部表彰のあゆみ

2024

- ◆ 第18回キッズデザイン賞　受賞「ナッツロール」
- ◆ 「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」名工・匠部門　大賞受賞　～ナッツロール～
- ◆ エコアクション２１オブザイヤー2023 環境レポート部門　優良賞受賞

2023

- ◆ エコアクション２１オブザイヤー2022　環境レポート部門　銀賞受賞

2022

- ◆ エコアクション２１オブザイヤー2021
  環境レポート部門　金賞受賞（環境大臣賞）

2021

- ◆ 「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」SDGs部門
  特別賞受賞　～ダンボール製什器開発～
- ◆ 環境人づくり企業大賞2020　優秀賞受賞
- ◆ 「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」特別賞受賞
  ～ダンボールベッド・間仕切～

2020

- ◆ 信州エコ大賞　企業賞受賞
- ◆ 第23回環境コミュニケーション大賞 「優良賞」

2019

- ◆ 第22回環境コミュニケーション大賞 「優秀賞」

2018

- ◆ 第21回環境コミュニケーション大賞 「優良賞」

環境配慮商品開発に関係する外部表彰のあゆみ

2025

- ◆ 「エコアクション21オブザイヤー2024」
  ソーシャル部門　金賞（環境大臣賞）
  環境経営レポート部門　銀賞受賞

【二度目の環境大臣賞受賞】

2023

プラ素材→紙へ

評価された商品特性
- ・CO2削減効果
- ・サステナブル資材への切り替え

2023日本パッケージングコンテスト「工業包装部賞」

2020

2020日本パッケージングコンテスト
「輸送包装部門賞」
アジアスター2020
2021ワールドスター賞

評価された商品特性
- ・梱包材の共通化
- ・材料使用量の削減
- ・輸送・保管スペースの削減

2018

2018日本パッケージングコンテスト
「輸送包装部門賞」
アジアスター2018

評価された商品特性
- ・廃棄物削減
- ・付加価値付与
- ・コストダウン効果

2017

2017日本パッケージングコンテスト「工業包装部賞」
2018ワールドスター賞

評価された商品特性
- ・材料使用量削減
- ・作業性向上
- ・コストダウン効果

2015

2015日本パッケージングコンテスト
「工業包装部門賞」
アジアスター2015

評価された商品特性
- ・One way方式から Returnable方式へ
- ・廃棄物削減
- ・作業性向上

2014

2014日本パッケージングコンテスト
「ジャパンスタ-賞」
アジアスター2014

評価された商品特性
- ・材料使用量の削減
- ・容積縮小による保管・輸送効率化
- ・コストダウン効果

2013

2013日本パッケージングコンテスト
「輸送包装部門賞」
アジアスター2013

評価された商品特性
- ・オール紙化
- ・作業性向上
- ・コストダウン効果
- ・梱包材の共通化

*日本パッケージングコンテスト
わが国最高峰のパッケージングコンテスト

＊Asia star:
アジア地区のパッケージングコンテスト

＊ワールドスター：
世界最高峰のパッケージングコンテスト

環境マネジメントシステム

風景写真:　美ヶ原高原（長野県上田市）

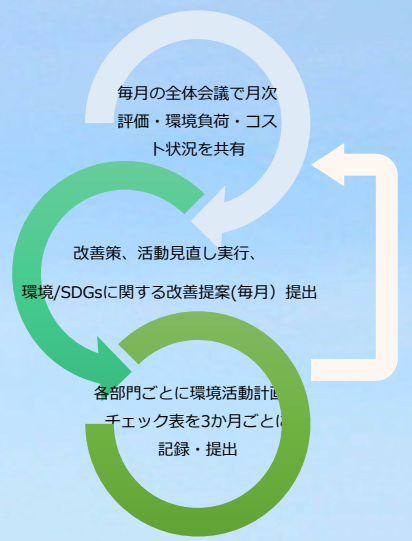
環境理念

コムパックシステム株式会社は、段ボール製品を核とした各種包装資材の製造工場として豊かな地球環境を次世代へ継承することが人類共通の重要課題であることを認識し、地球環境の保全とその向上を目指した事業活動を行う。

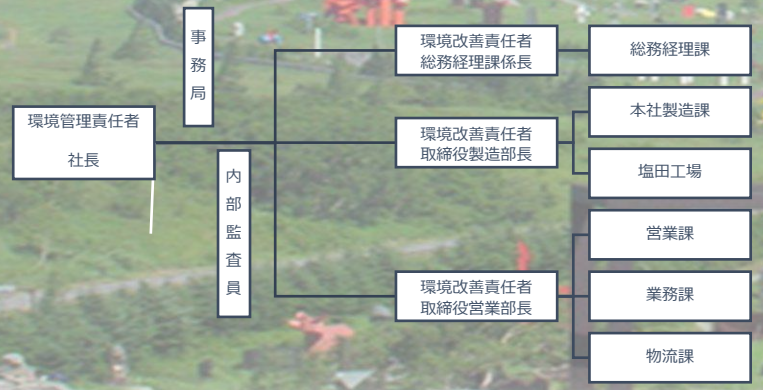
環境方針

1.　環境保全活動を推進するため、事業運営に環境マネジメントシステムを構築し、環境の影響を効果的に低減又は削減するために環境目的及び目標を定める。
2.　当社の事業活動にともない環境に有意な影響を与える以下の重要項目に関して継続的に実績改善に取り組み、環境汚染の予防の目的達成に努める。
　①　天然資源とエネルギーの消費量削減
　②　環境負荷物質の管理強化と低負荷物質への代替促進
　③　グリーン購入促進と廃棄物の排出量削減
　④　環境に配慮した省資源製品の積極的販売・開発に努める
3.　環境活動の推進と向上のため、項目ごとに目標を設定し、そのための活動計画を立案し、実施し、内部環境監査結果などにより評価し、見直しを行う。
4.　環境に関する法的要求事項および当社が合意するその他の要求事項を遵守して、いっそうの環境保全を図る。
5.　教育訓練及び日常の環境管理活動を通じて、全従業員に本方針を周知するとともに、運営制度に関する責任の所在の明確化を図り、常に最新の環境マネジメントを維持する。
6.　この環境方針は、社外にも公開する。　　2015年4月1日　　代表取締役社長　鈴木由彦

PDCAを回すことで活動の持続的発展を目指す



推進体制



代表者、環境管理責任者	方針を決定し周知する。 資源（ヒト、モノ、カネ）を用意する。 全体の評価、見直し、レポート承認。 環境経営システムを構築し実行、実績を向上させる。 文書承認、レポート編集をする。 ENS全般の舵取り、実行推進する。
環境改善責任者	EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する。 取り組み、負荷チェックを行う。 自部門の環境目標、活動計画の達成と実績の把握をする。 法規制を遵守する。教育訓練を実施。自部門のメンバーへ周知徹底する。 緊急事態への準備、対応の訓練実施。 管理者を補佐し解決策を立案する。 外部からの提案・苦情を受けつける。

内部監査

「要求事項、活動内容がが各業務内で正しく守られているか」という適合性の確認と「監査の対象が環境マネジメントシステムの目的に準じて役立っているか」という有効性の評価のために１年に１回、内部監査を実施しています。より客観性・公平性を担保するために製造部長が販売・物流・管理部門を、営業部長が製造部門を監査し記録に残しております。

活動check

活動計画に沿って確実に活動しているか３かごとに,部門の活動内容を記載し、環境管理責任者へ提出しています。定期的にチェックすることにより、活動が弱体化しないように管理しています。毎月のPDCAも行いスパイラルアップの循環を止めないように配慮しています。

Vision 2030

5 years left
あと5年

進捗状況 (from 2018 ~ to 2024)

エコアクション21 認証番号0003060 × SDGs NAGANO MARK

SDGs達成に向けた経営方針

弊社の企業理念「お客様満足度向上に努め、社員と企業が共に成長し、地域社会の進歩発展と持続可能な社会づくりに貢献する」は、人や環境に配慮し社会が求める製品やサービスを持続的に提供することで、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、全社員がそのことを自覚し、各自の役割をはたすことによりSDGsの達成に貢献していきます。

当社は長野県が創設したSDGs（持続可能な開発目標）の達成に意欲的に取り組む県内企業等を登録・PRする制度「長野県SDGs推進企業登録制度」に2019年11月に登録し持続可能な社会づくりに全社挙げて本格的に取り組み始めました。あわせて経営理念もSDGSの達成にむけて改訂し持続可能な社会づくりに貢献」という文言も新たに加え2030年までの目指すべきゴール「Vision2030」として名実ともにキックオフをし、エコアクション２１とSDGsを関連付け全社での取り組みをすすめています。

環境面

Target1: Environment

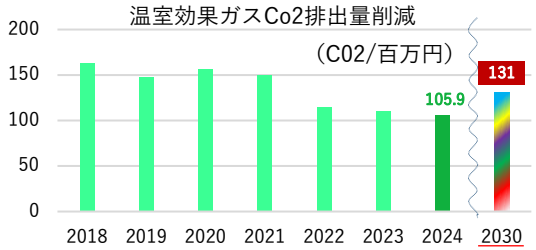
温室効果ガス CO2排出量20%削減 (CO2/百万円)

2018年: 163.6kg-Co2/売上(百万円)
↓
2030年: 131kg-Co2/売上(百万円)

＊比較するために電力事業者実排出係数は以下の通りです（2022年に電力会社変更）

■2018年～2021年
実排出係数：0.482 kg-CO_2/kWh（平成27年度 中部電力㈱）

■2022年～現在
実排出係数：0.308 kg-CO_2/kWh（令和3年度 上田ガス㈱）



1 2024年度目標達成率 119%

POINT ここまでの
- 各種エネルギー使用量の削減効果
- 売上額の増加
- 全社での生産性向上効果

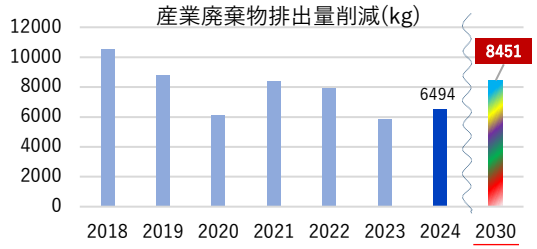
2030年目標 達成可能で推移中

Target2:Econpmy/ Environment

経済面 環境面

事業活動における産業廃棄物排出量の20%削減(kg)

2018年: 10,564kg
↓
2030年: 8,451kg



2 2024年度目標達成率 123%

POINT ここまでの
- 排出内訳別の分析と削減効果
- 汚泥排出減少効果（設備導入効果）
- 補修・再利用による排出量減少効果

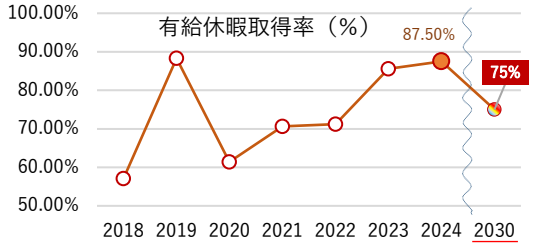
2030年目標 達成可能で推移中

経済面 社会面

Target3:Economy/ Society

労働生産性の向上 有給取得率向上

2018年: 57.1%
↓
2030年: 75.0%以上



3 2024年度目標達成率 117%

POINT ここまでの
- 生産性向上効果
- 個人別管理と計画的取得/時短取得活用
- 誰もが取得しやすい風土、雰囲気づくり

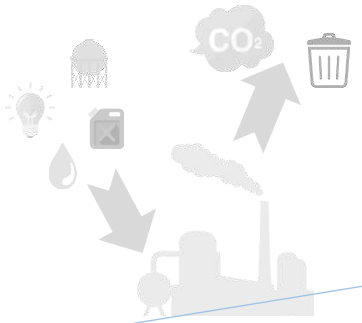
2030年目標 達成可能で推移中

>>>経営者コメント<<<

SDGsの基盤は「環境」であり環境が全ての根底にあると考えています。その基盤上に社会と経済活動があり環境が維持できなければ社会不安定となり経済成長もあり得ない、という認識のもとでエコアクション21の活動の重要性を改めて再認識し各環境目標とSDGsの関連性を強く意識して取り組んでおります。環境目標がSDGsの3目標と共有しているためにSDGsとエコアクション21は切り離して活動するものではなく、共通一体の活動としての活動を行っております。

マテリアルバランス Material balance -2024-

事業活動の過程で投入したエネルギーや資源（インプット）と、事業活動によって発生した環境負荷物質（アウトプット）を把握し、環境負荷の低減につなげています。



INPUT

エネルギー使用量

ガソリン・・・5,780L

電力・・・209,276kwh
都市ガス・・6,156Ｎ㎥
灯油・・・2,976Ｌ
上水・・・990㎥

軽油・・・20,632L

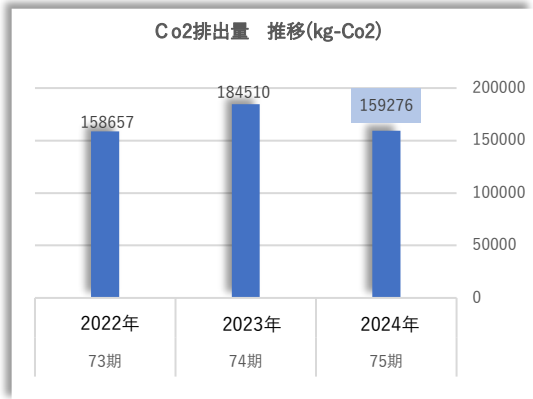
営業活動 → ガソリンCo2 排出量・・13,419kg-Co2

生産活動 → 電力Co2 排出量 71,363kg-Co2
都市ガスCo2 排出量 13,753kg-Co2
灯油Co2排出量 7,409kg-Co2
産業廃棄物 4,595kg
事務所紙関連廃棄物 487kg

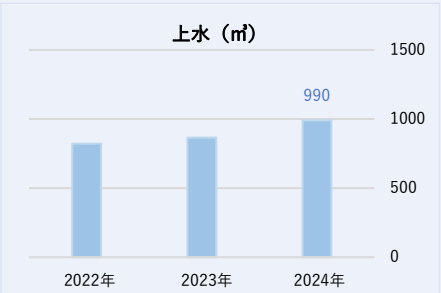
物流 → 軽油Co2排出量・・53,333kg-Co2

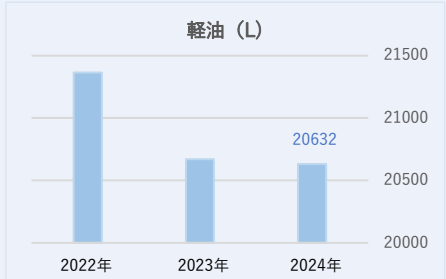
OUTPUT

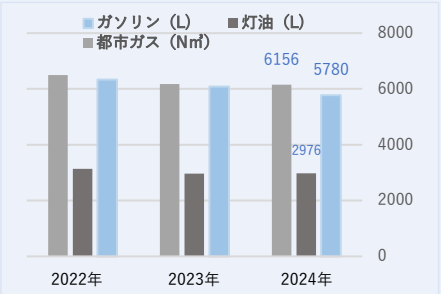
Co2排出量/廃棄物



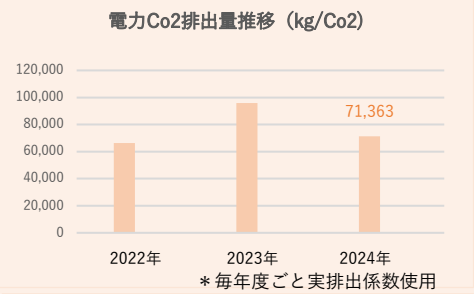
INPUTの推移

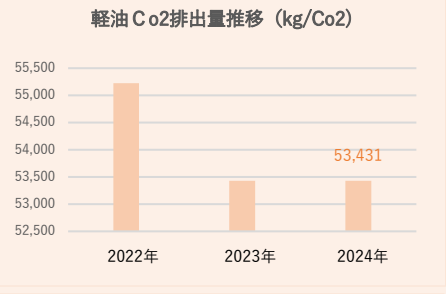


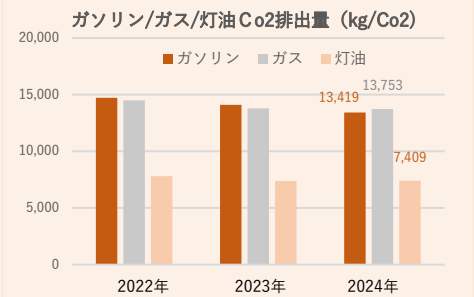


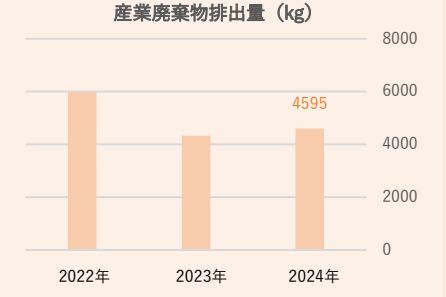


OUTPUTの推移









OUTPUTを減少させる取り組みの一例

電力　太陽光発電/ＬED照明の活用で消費を抑えています

本社工場と塩田工場には早くから太陽光発電/LED照明設備を導入済。その中でも本社工場では太陽光発電した電力を事務所の照明/PC/OA機器などの電力として活用しています。

ガソリン 軽油　HV/新車トラックへの更新

営業車、社有車は全社ＨV車へ更新済。あわせて自社トラックを環境対応の新型車へここ数年順次更新中。来期も更新予定です。軽油消費量の減少も目的の一つとして環境投資を実行しています。

エネルギー源切り替え　灯油からガスへ

従来、ボイラーのエネルギー源には灯油を使用していましたが、より原単位CO2排出量の少ない都市ガスボイラーに切り替えenergy転換しています。結果、全体でのCo2排出量削減に貢献しています。

産業廃棄物　産廃から原材料へ

従来産業廃棄物となっていた発泡緩衝材のロスを、新たなPE製品の原材料として再利用することへ切替え、大幅な環境負荷削減とともに持続可能な社会づくりへの貢献度を向上しました。

エネルギー使用量推移（とりまとめ）

参考データ Reference Date

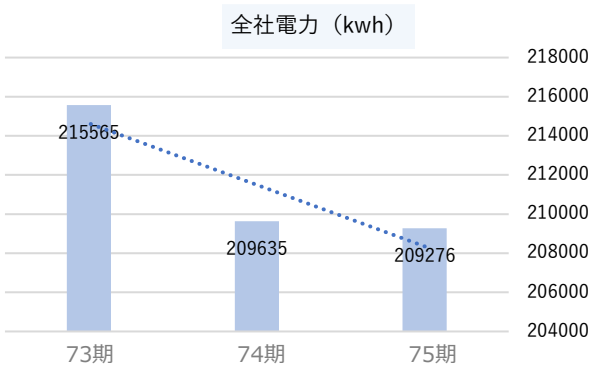
ハード対策とソフト対策に加え、永年にわたる環境活動での独自取組を組み合わせて負荷削減への活動を推進してまいりました。水使用量のみ増加していますので来期に向けて対策を検討し削減に向けて取り組みます

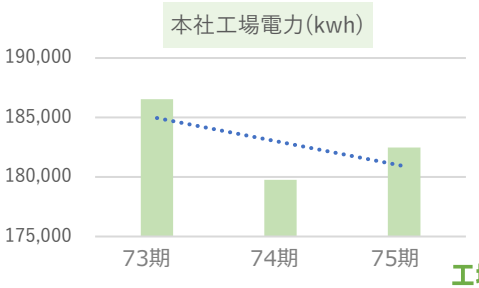
様々な手法での環境負荷削減

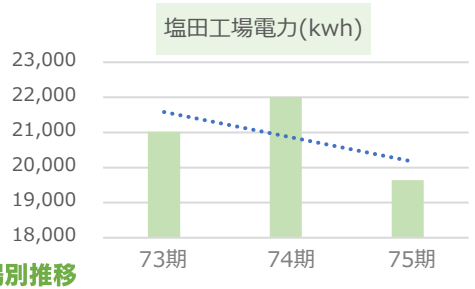
ソフト対策
（業務見直し,手順見直し,社員教育・意識改革,生産性向上・働き方改革.情報管理）

ハード対策
（LED,太陽光発電,設備更新,HV車,　各種環境投資実行）

EA21を活用した当社独自の取組
（PDCAの繰り返し,改善提案,社員の環境保全意識）

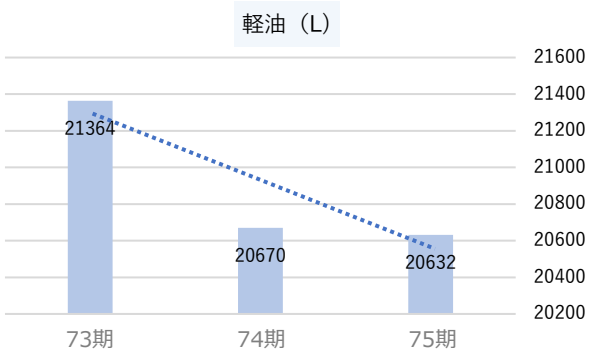


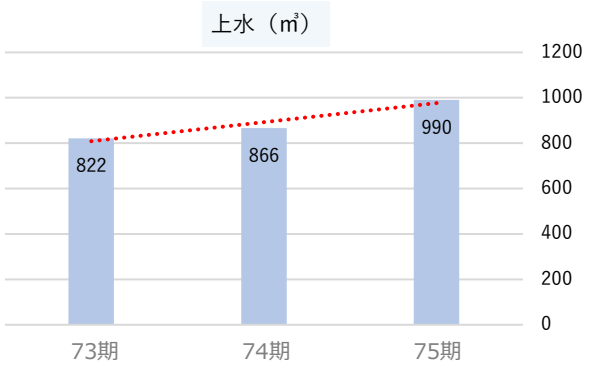


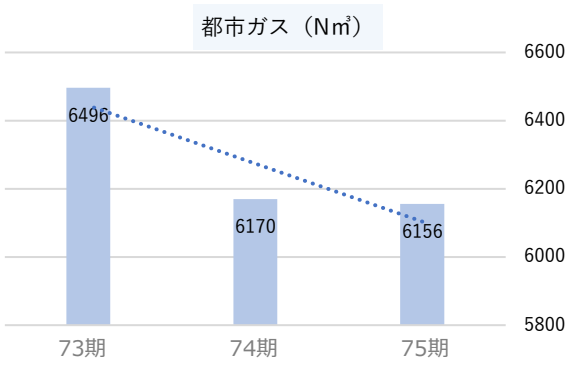


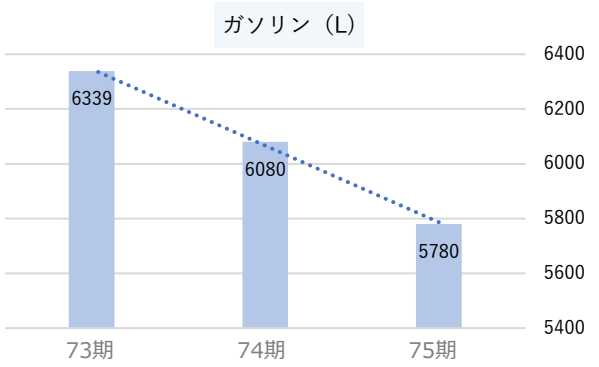
工場別推移

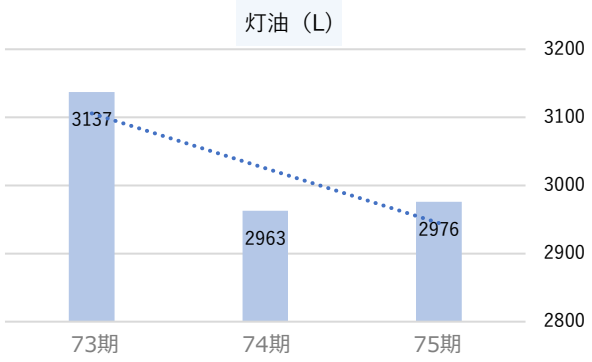
本社工場は生産量が増加し稼働が増加したために増。塩田工場は生産量が増加したが省電力設備への更新効果もあり減。生産の平準化や生産性向上による効率アップ・時短取り組み、時間外労働時間の削減などで使用量をさらに減少させる取り組みを進めていきます。











Important matters

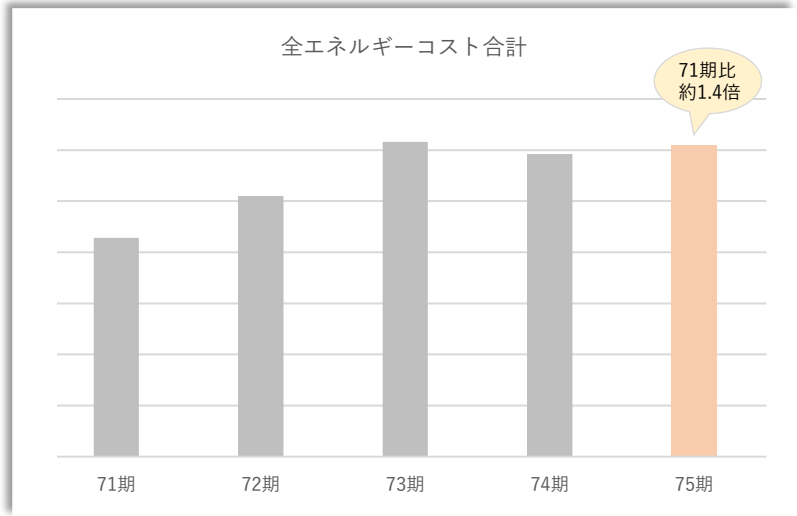
水使用量増加の原因追及を

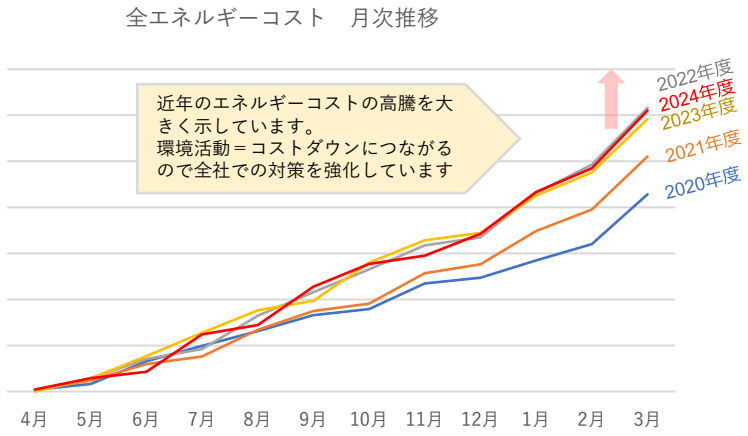
水使用量が唯一増加傾向。ボイラーで多く消費するため、ボイラー稼働の削減に取り組み、それに伴いボイラーのエネルギー源であるガス使用量は減少しました。しかし水使用量は依然増加しているので、その原因を追究する必要があります。生活用水での使用は限定的なので漏水の可能性も含めて調査し、原因特定をすすめ削減への取組みを進めます。

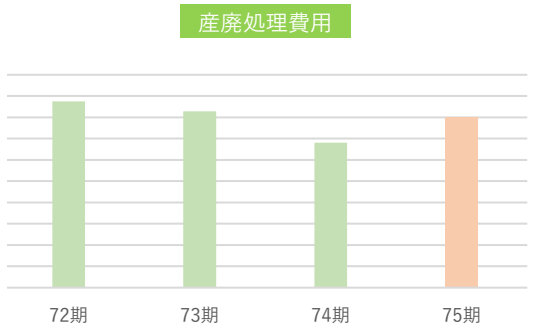
参考データ
Reference Date

エネルギーコスト/産廃処理金額

各種エネルギーコストを社員に“見える化”することで
全員がコスト意識を持ち業務に取り組む







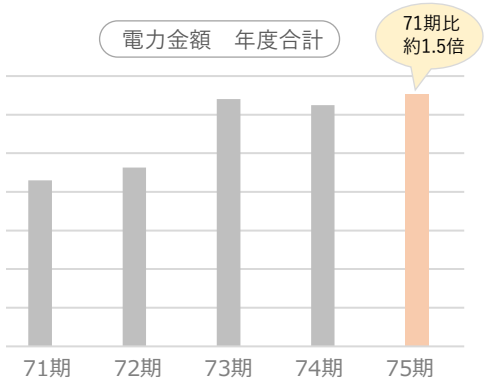
生産量の増加に比例して汚泥処分費用の増加（廃液処分量増加）が増加の主要因。
廃液処理の削減につながる改善活動を継続するとともに各種別排出量の削減に取り組む。

エネルギー削減取り組みを進めてはいるが、直近四年でエネルギーコストは一、四倍と高騰。世界のエネルギー事情・地政学的リスクから判断すると更なる高騰も見込まれ、環境負荷削減＝コストダウン対策に取り組むことが企業の持続的発展には不可欠であり全社での活動を強化していきます

毎月社員へエネルギーコストを見える化、開示しています。取り組んだ結果の成果を社員皆で分配し、やりがいの達成やモチベーション向上につなげております

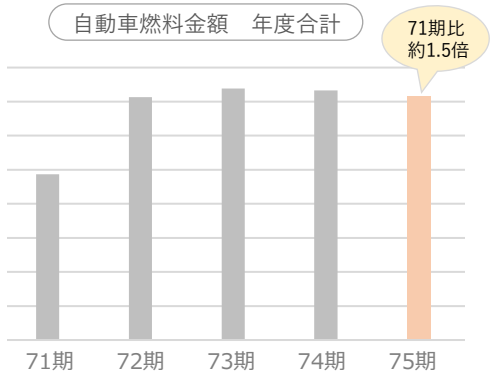
環境負荷削減＝コストダウン
企業の持続的発展に不可欠

直近四年でエネルギーコストは一、四倍



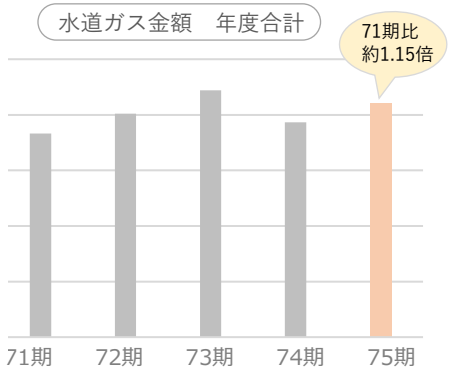
1 3年前より地政学要因で急騰し横ばいで推移中。今後も大きく下がる見込みはなくコストアップ要因となっており、重要テーマとして節電対策を強化中です。

2 生産性向上と効率よい設備運用によりトータル電力の使用を抑えコストダウンにつなげる取り組みを推進中。



1 リッター単価は高騰しているが燃費効率の向上への取組成果がでており微減傾向で推移。

2 トラックの老朽化による燃費悪化が顕著となっており今期に続いて来期も新型車に更新し燃費向上→コストダウンへつなげていく計画。



1 水道とガスともに前年比増。特にガスの使用量は削減したにも拘わらず値上げの影響により金額では増加。

2 水道ガス共にボイラーでの使用が主となるためにボイラー使用の削減に引き続き取り組んでいます。

環境目標 The Goal

～環境負荷（エネルギー・廃棄物関連）を削減する～
【二酸化炭素排出量削減/産業廃棄物排出量/排水量削減】

エコアクション21認証取得以来16年にわたり継続してきた
環境負荷削減の主要活動目標

項目			単位	基準年	3年間の目標			SDGsゴールとの関連	環境とのかかわり	本来業務/付加価値との関係性
				2022年実績	2023年目標	2024年目標	2025年目標			
二酸化炭素排出量の削減			kg-CO2/売上（百万円）	114.9	1%削減	1.5%削減	2%削減	長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります	地球温暖化の要因となっている温室効果ガス（二酸化炭素排出）の排出量を抑える取り組み。世界的に最も喫緊の重要なテーマであり最も重要視している目標である。	各種エネルギー使用費の削減をすすめ、コストダウンにつなげ付加価値拡大に貢献。
					113.8	113.2	112.6			
	電力使用量の削減	本社工場	kwh/千㎥	37.2	1%削減	1.5%削減	2%削減		当社で最も二酸化炭素排出量の多い（総排出量の約45%）最重要管理項目。	生産性向上と時間外労働削減につなげコストダウンに加え効率の良い競争力のある生産体制と管理を目指す。
					36.8	36.6	36.5			
		塩田工場	Kwh	21,022	1%削減	1.5%削減	2%削減			
					20,812	20,707	20,602			
	軽油消費量の削減		km/L	4.98	1%燃費UP	1.5%燃費UP	2%燃費UP		当社で二番目に（総排出量の約42%）二酸化炭素排出量が多い管理項目。	効率の良い配送業務・営業活動、納品改善・物流改革に取り組みコストダウンと物流改善を目指す。将来のドライバー不足への対応度を強化する。
					5.03	5.05	5.08			
	ガソリン消費量の削減		km/L	17.91	1%燃費UP	1.5%燃費UP	2%燃費UP			
					18.09	18.18	18.27			
	ガス使用量削減		㎥/千㎥	1.32	1%削減	1.5%削減	2%削減		当社で三番目に（総排出量の約9%）二酸化炭素排出量が多い管理項目。	ボイラーでの使用量が主となるので引き続き最低限での使用に抑えコストダウンと業務の簡素化に取り組む。
					1.31	1.30	1.29			
産業廃棄物排出量の削減			kg	8,385	2%削減	3%削減	4%削減	長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります	環境破壊の要因ともなっている産業廃棄物排出量を低減し焼却時のGHGの低減、埋め立て時の負荷（土壌・水質汚染防止等）を減らしていく取り組み。	産業廃棄物処分量を低減＝処分費削減（コストダウン）につなげる。できるだけリサイクル、サーキュラーエコノミーに取り組み管理・リスクの低減に寄与。
					8,217	8,133	8,050			
	工場	①可燃ごみ	kg	307	2%削減	3%削減	4%削減		各種産廃排出量の低減をすすめ環境負荷の低減に貢献。分別の徹底を図りリサイクル・再利用可能なものは活用。	処分料のコストダウンにつなげ、2024年度から実施しているサンテックフォーム端材のようにサーキュラーエコノミーへの展開につながれば収益拡大につながるとともに差別化商品としての効果大。
					301	298	295			
		②廃プラ	kg	595	2%削減	3%削減	4%削減			
					583	577	571			
		③廃木材（パレット含）	kg	1,580	2%削減	3%削減	4%削減			
					1,548	1,533	1,517			
		④汚泥	kg	3,490	2%削減	3%削減	4%削減			
					3,420	3,385	3,350			
		⑤その他	kg	1,847	2%削減	3%削減	4%削減			
					1,810	1,792	1,773			
	事務所	①雑紙②オフィス古紙③ミックスペーパー（カーボン紙）	kg	566	2%削減	3%削減	4%削減		DX化と両面コピーの使用を徹底し使用量を減少させ資源の有効活用に貢献。	業務のＤX化促進、ペーパーレス化による業務効率化を目指す。
					555	549	543			
排水量の削減			㎥	822	1%削減	2%削減	3%削減		限りある資源の有効活用に取り組む。ボイラー使用の最適を目指し水、ガス両面に対して削減につなげていく。	ボイラー使用の削減に取り組むことでガスと水使用量の削減へ取り組み大きなコストダウンに貢献する。
					814	806	797			

環境目標 The Goal

～本来業務、SDGsとのかかわりを強く意識する～
【自社の付加価値拡大、企業価値向上】

本来業務の各種課題、ＳDGs目標も一元化。当社の問題点や課題がタイムリーにつかめ継続的な発展につなげることを目標とする

項目		単位	基準年	3年間の目標			SDGsゴールとの関連	環境とのかかわり	本来業務/付加価値との関係性
			2022年実績	2023年目標	2024年目標	2025年目標			
生産性の向上による省資源、省エネルギー	主力生産機アイビス セット時間の短縮	分	2.69	1%削減	1.5%削減	2%削減	7 8	当社主力生産機FFGアイビスの生産性向上を目指すことで（時間当たり生産量・セット時間の短縮）、時間外労働時間の短縮や時間当たり生産量の向上、ロス削減、ムダ・ムリの撲滅につなげ、環境負荷削減に貢献する。	生産性向上は製造部門の主要テーマであり、セット時間短縮と平均生産速度向上は付加価値の拡大に大きく貢献。ムダムリの撲滅、改善活動を通じて業績向上に直結。
				2.66	2.65	2.64			
	主力生産機アイビス 平均速度の向上	枚/分	195.3	1%UP	1.5%UP	2%UP			
				197.3	198.2	199.2			
時間外労働時間の削減		時間	1,686	5%削減	6%削減	7%削減	8	生産性向上、お互いの助け合い、多能工化への取り組みをすすめ個人及びチームのスキルを向上させることで労働時間の削減につなげトータルエネルギーの削減に貢献。	ワークライフバランスに貢献し社員が働きやすい環境づくりにもつながり社員モチベーションの向上に有効。生産性向上が求められるためにコストダウンと付加価値向上にに貢献。
				1,602	1,585	1,568			
在庫回転率の向上		回	4.23	2 %UP	3 %UP	4 %UP	12	長期在庫は最終的に破損、品質劣化による処分となる場合が多く環境面での負荷を増加させるリスク大。それらの改善に貢献し環境負荷を減らしながら経営効率化にも貢献できるように取り組んでいく。	在庫は販売機会を失わうことがないよう必要な場合もあるが、増加しすぎると５Ｓへの影響、また止まった場合はキャッシュフロー悪化を伴う。管理費削減・処分する際の処分料の削減（コスト低減）も可能。
				4.31	4.36	4.4			
減容チップ排出量の削減（サンテックフォームロス削減）		kg/㎥	16.1	1%削減	1.5%削減	2%削減	12	原反から切り出し・抜き・貼り加工などを行っている緩衝材の加工時のロス（端材）を出来るだけ少なくし処分（減溶）する量を減らすことで環境負荷の低減に貢献。	製造部門だけでなく設計段階での取り組みが必須。製販共に情報交換しながらロスを極力排出しないような抜型設計に取り組む。昨年よりサーキュラーエコノミーの取り組みスタート。ロスを減らすことでコストダウン・付加価値向上に大きく貢献。
				15.9	15.9	15.8			
環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善		件	72	営業部全体　毎月6件以上			4 9 15 12	勝ち残りのための重要なキーワード。環境保全を意識した設計段階からの取り組みはユーザーニーズの必須事項である。軽量化・薄物化・低ロス・リターナブルなど様々な観点から環境に配慮した商品設計を進めていくことで環境保全へと貢献する。	目標達成のための活動は当社の強み・特徴、大きな他社との差別化につながり当社の存在価値となっていく。当社独自の環境商品を普及させることが地域、結果付加価値の拡大への貢献となっていく。
				72	72	72			
顧客クレーム削減		件		現状把握年度	40%削減	50%削減	12	クレームは訪問・手直し・作り直し作業・廃棄の発生など環境面からも大きなロスを発生させている。そのクレームを管理・削減し負荷の低減につなげる。	小さなクレームまでも管理し信用信頼の向上につなげる。再発を防止し企業の信用力を向上させ企業価値の向上につなげる。
				38	23	19			
不良率低下による省資源、廃棄物の削減	破損品の削減（件数）【工場発生分】	件	22	20	18	16	12	自社での破損品発生は、廃棄・再手配・作りなおし・再配達など環境負荷を悪化させる要因となるので再発防止の徹底に努め環境負荷の低減に貢献していく。	工場発生分・事務所発生分と分けて管理していくことで、責任の明確化を行い、自分ごととして捉え再発の防止を狙っていく。破損品発生は付加価値を自ら減少させる事になるので破損品発生の原因を追究・再発防止を行うことで付加価値の向上につなげる。
	破損品の削減（件数）【事務所発生分】	件	6	5	5	4			
	破損品の削減（金額）【工場発生分】	円	215,840	180,000	160,000	150,000			
	破損品の削減（金額）【事務所発生分】	円	257,092	230,000	200,000	180,000			

活動計画 Action Plan

～各目標ごと活動計画を設定しそれらを関係各所で実行、PDCAを回すことで目標達成に取り組んでいます～

・代表的な活動計画を下記に記載しています
・四半期に1度、管理者（経営者）まで状況報告書の提出を行ない確認チェックと見直しを進めています。

環境目標	環境活動計画	P
二酸化炭素排出量の削減	節電、エコドライブ、ボイラー使用減少。	17ページ
	環境負荷削減設備の検討・更新。（毎期実施）	
	物流の効率化への取組み。	
	生産性向上と業務効率化の促進。	
産業廃棄物排出量の削減	抜型、印版の定期的処分確認（顧客交渉）＊まとめすぎない	19ページ
	毎月の排出内容（いつ、どこから、どのくらい）の分析。	
	分別徹底、持ち込み禁止。補修再利用促進。	
	ペーパーレス、ＤX化促進。	
排水量の削減	廃液処理装置の使用頻度の減少。	20ページ
	生活用水節水活動。	
	ボイラー使用時間の減少。	
	設備保全・メンテ、漏水確認。	
生産性の向上による省資源省エネルギー	インク集約、色別、形式、ロット等ロット内容に応じた工程組み換え。	20ページ
	セット変更時間、生産速度向上の為の設備改善検討。	
	連続した同一ロット品の集約工程計画。	
	受注内容改善（顧客交渉）	
時間外労働時間の削減	生産性向上に貢献する投資。作業改善、改善提案の継続実施。	21ページ
	自部門・自工程以外の応援、協力。	
	生産性向上に関する取り組みと改善提案強化。	
	ＤX化。業務効率化検討。ムダミリの見つけ出しと対策実施。	

環境目標	環境活動計画	P
在庫回転率の向上	毎月1回実地棚卸を行い、正確な在庫数を把握し要注意在庫一覧表を回覧し、月次チェックを確実に行っていく（毎月のチェック確実に実行）	21ページ
	フォーキャストを正確につかみ需要動向を見極める。顧客との連携強化。	
	整理・整頓・清掃を行い、商品の在庫場所を明確にする	
	先送りしない管理、実施。（長期不動品を維持しなし）	
減容チップ排出量の削減	設計段階でロスの極力減少させる型図面段階での製造との検討。	22ページ
	原反からの加工方法改善（スライス、カット寸法の見直し）	
	ミリ単位での不要なスライス加工の見直し（顧客確認）	
	端材の再活用、有効活用方法。	
環境/SDGsに配慮した設計、製造工程の改善	インク集約化を進め廃液処分減少。ロット、形状、色変更を考慮した生産工程作成。	22ページ
	環境対応品への切り替え（ＦSC®原紙、バイオマス品、リサイクル品）	
	紙化への切り替え提案。新用途商品開発。	
	薄物化、軽量化、リターナブル化、共通化、プラから紙への切り替え促進。	
顧客クレーム削減	毎月進捗（達成）状況を全社で確認し再発防止策の徹底を都度図っていく。	23ページ
	決められた作業方法 標準化、ダブルチェック、ルールを守る指導教育。	
	「次工程はお客様」の意識で自部門での製品に対するこだわりを持ち、少しでもおかしいと思う場合には上長にホウレンソウの実施強化。	
	ケアレスミス防止のための連携、チェック体制検討	
不良率低下による省資源、廃棄物の削減	慣れ、思い込みによるケアレスミス防止（日々の啓蒙）	23ページ
	1人に任せない複数人体制での取り組み検討	
	作業標準化、社員教育。多能工・応援体制時の確認強化	
	設備メンテと保全の強化。	

TOPIC

永年にわたり社員全員から改善提案を募集提出してもらっています。環境負荷を下げる取り組み、５S/安全、SDGｓ、業務改善など内容は多岐にわたっています。これまで多くの優れた提案がなされ、環境貢献度ＵＰ・業績向上につながっています

常に考えながら業務に取り組んでほしい、現状より少しでも良くなることを積み重ねていこう、という想いから継続しています。

月初め朝礼では社員全員に前月までの環境目標の推移状況、コスト状況などを直感的に分かりやすく「見える化」して、今後の活動計画の参考としてもらっています。「自分ごと」として捉えてもらい自主的な活動として進めています。

Achievement and evaluation

2024年度活動実績と評価（一覧）

環境負荷（エネルギー・廃棄物関連）削減目標
【二酸化炭素排出量削減/産業廃棄物排出量/排水量削減】

評価基準

◎ 目標を大きく達成	○ 目標達成	△ 未達成	× 目標を大きく未達成

達成率120%以上　　達成率89%以下

項目			単位	基準年 2022年実績	実績 2023年目標	評価 2023実績	2024年目標	評価 2024実績	SDGsゴールとの関連
二酸化炭素排出量の削減			kg-CO2/売上（百万円）	114.9	1%削減	○	1.5%削減	○	
					113.8	110.9	113.2	105.9	
	電力使用量の削減	本社工場	kwh/千㎥	37.2	1%削減	△	1.5%削減	○	7, 12, 13
					36.8	37.2	36.6	35.6	
		塩田工場	Kwh	21,022	1%削減	△	1.5%削減	○	
					20,812	22,011	20,707	19,639	
	軽油消費量の削減		km/L	4.98	1%燃費UP	△	1.5%燃費UP	△	
					5.03	4.87	5.05	4.79	
	ガソリン消費量の削減		km/L	17.91	1%燃費UP	○	1.5%燃費UP	○	
					18.09	18.14	18.18	19.48	
	ガス使用量削減		㎥/千㎥	1.32	1%削減	○	1.5%削減	○	
					1.31	1.3	1.30	1.22	
産業廃棄物排出量の削減			kg	8,385	2%削減	◎	3%削減	○	
					8,217	6,227	8,133	6,961	
	工場	①可燃ごみ	kg	307	2%削減	◎	3%削減	×	
					301	244	298	350	
		②廃プラ	kg	595	2%削減	×	3%削減	◎	
					583	760	577	345	12, 13
		③廃木材（パレッ含）	kg	1,580	2%削減	◎	3%削減	◎	
					1,548	1,260	1,533	1,070	
		④汚泥	kg	3,490	2%削減	◎	3%削減	◎	
					3,420	2,060	3,385	2,830	
		⑤その他	kg	1,847	2%削減	◎	3%削減	△	
					1,810	1,348	1,792	1,879	
	事務所	①雑紙②オフィス古紙③ミックスペーパー（カーボン紙）	kg	566	2%削減	○	3%削減	○	
					555	555	549	487	
排水量の削減			㎥	822	1%削減	△	2%削減	×	12, 6
					814	866	806	990	

※電力排出係数は、3年間同じ係数を使用し算出する
※電力事業者実排出係数0.308kg-CO2/kWh（令和3年度上田ガス(株)）

みえる化

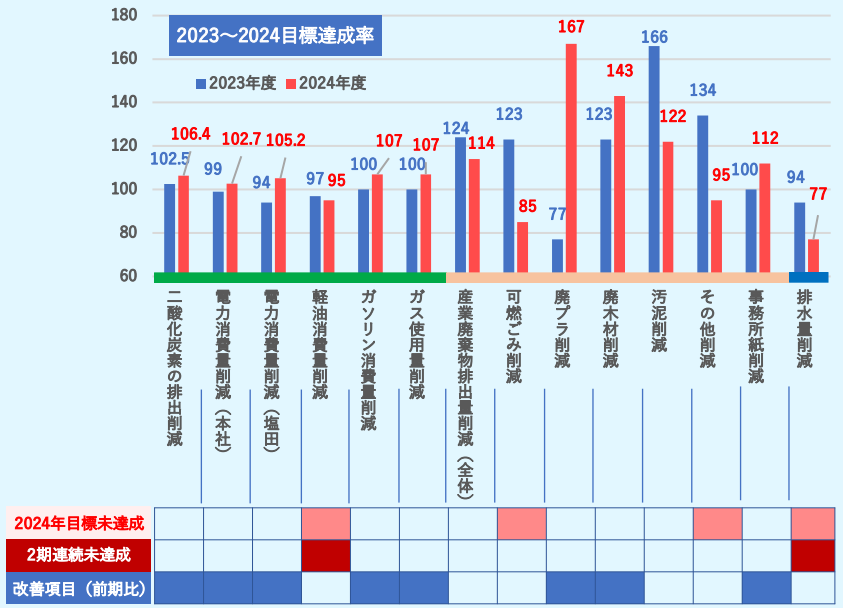
3か年計画 達成率とチャートによる状況チェック(2023～2024)

環境活動の結果を達成率とチャート（今年度未達成項目/2年連続未達成項目）により分かりやすく見える化。
現在活動中の3か年計画の2年分をまとめました

1 「軽油消費量削減」と「排水量削減」目標が2期連続未達成
「軽油消費量削減」→燃費改善、「排水量削減」→水使用量削減 目標が2期連続未達成となり来期の大きな課題となります。

2 可燃ごみ排出量が増加し今年度目標未達成
可燃ごみの排出量が今期増加し目標未達成となり、その他排出項目も今期増加。原因の調査と対策を指示。

3 目標は達成したが、汚泥の排出量が増加、一方で廃プラは大幅減少
汚泥は排出タイミングにより年度内排出になるか期をまたぐかで変動するとみられるので排出タイミングの均等を図る。廃プラの排出量は大幅減少に成功。



Achievement and evaluation

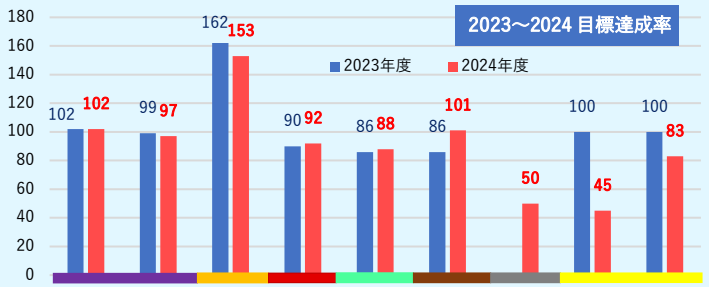
2024年度活動実績と評価（一覧）

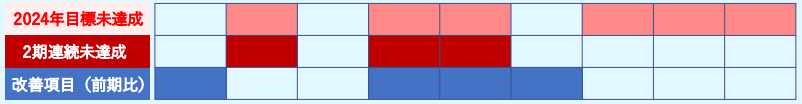
本来業務/SDGsにも関わる環境目標

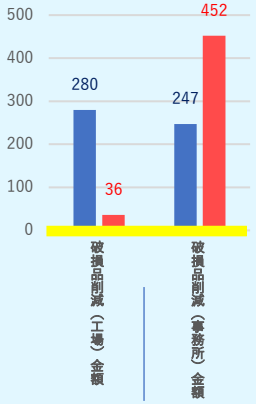
項目		単位	基準年 2022年実績	実績 2023年目標	評価 2023実績	2024年目標	評価 2024実績	SDGsゴールとの関連
生産性の向上による省資源、省エネルギー	主力生産機アイビスセット時間の短縮	分	2.69	1%削減	○	1.5%削減	○	7, 8
				2.66	2.6	2.65	2.6	
	主力生産機アイビス平均速度の向上	枚/分	195.3	1%UP	△	1.5%UP	△	
				197.3	195.1	198.2	193.2	
時間外労働時間の削減		時間	1,686	5%削減	◎	6%削減	◎	8
				1,602	989.25	1,585	842	
在庫回転率の向上		回	4.23	2％UP	△	3％UP	△	12
				4.31	3.88	4.36	4.02	
減容チップ排出量の削減（サンテックフォームロス削減）		kg/㎥	16.1	1%削減	×	1.5%削減	×	12
				15.9	18.5	15.9	18	
環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善		件	72	毎月6件以上	×	毎月6件以上	○	4, 9, 15, 12
				72	62	72	73	
顧客クレーム削減		件		現状把握年度		40%削減	×	12
					38	23	46	
不良率低下による省資源、廃棄物の削減	破損品の削減（件数）【工場発生分】	件	22	20	○	18	×	12
					20		40	
	破損品の削減（件数）【事務所発生分】	件	6	5	○	5	△	
					5		6	
	破損品の削減（金額）【工場発生分】	円	215,840	180,000	◎	160,000	×	
					63,962		444,675	
	破損品の削減（金額）【事務所発生分】	円	257,092	230,000	◎	200,000	◎	
					92,996		44,202	

評価基準

◎ 目標を大きく達成	○ 目標達成	△ 未達成	× 目標を大きく未達成
達成率120%以上			達成率89%以下







4 **付加価値向上と信用信頼に関わるクレーム/破損品削減目標が大きく未達成**

付加価値の向上と信頼性の向上に関わる重要な目標の多くが目標未達成であり今後の大きな課題となっている。ここの取組向上が企業の持続的発展には不可欠である。

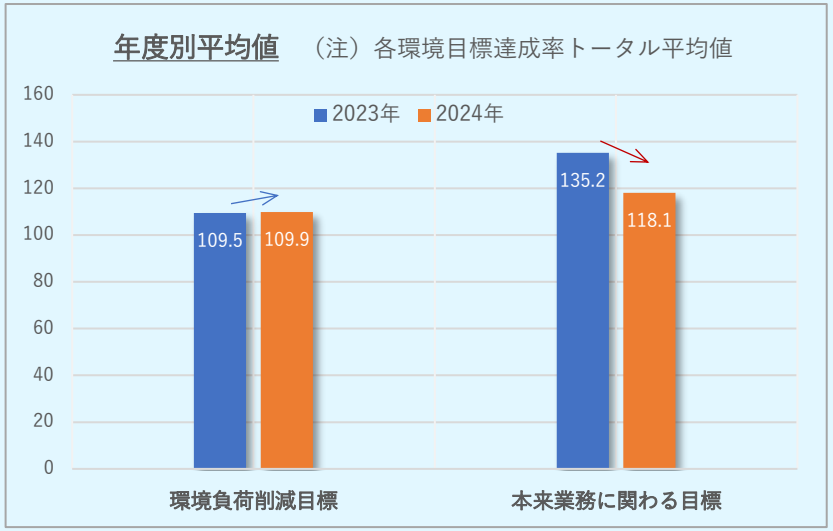
5 **重要なKPI項目ばかり。高い目標値ではあるが継続的に取り組み企業力Upを目指す**

どれも重要なＫPI指標であり高い目標値であるがこれらを改善していくことが企業存続につながる取り組みという認識の元、最終年度でのさらなる達成率向上を目指し全社一丸となり取り組んでいく。

6 **全社員の意識向上、モチベーションUPを狙う**

本来業務の向上とSDGs達成に向けての目標であることを全社員が共有しエコアクション２１の取組を通じこれらの目標を達成するにはどうしたらいいかを個人、部門において常に考えながら業務に取り組む習慣を定着化しています。

参考データ
Reference Date



集計 前年比比較

みえる化

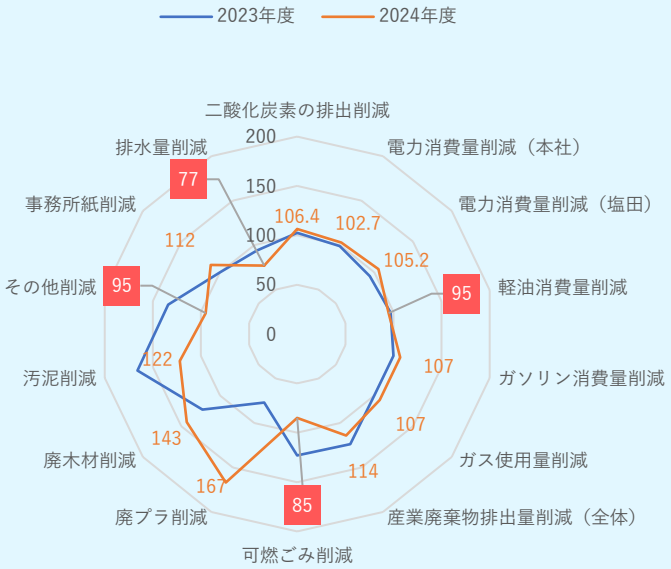
今期達成率を前年比と比較してチャート比較

＝現在の課題項目が一目瞭然！＝

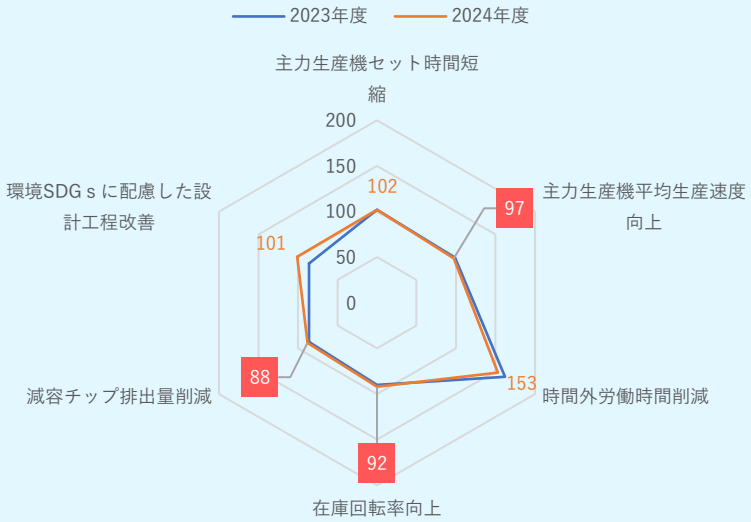
- ✓ 達成したか否かだけなく、達成率から課題を読み取り次期年度へと引き継ぎます。
- ✓ 「環境負荷削減目標」の全体達成率は向上しているが(109.5→109.9%)、環境負荷と「本来業務にも関わる目標」は大きく減少しています(135.2→118.1%)。これは破損品削減目標関連の未達成が大きな要因であり来期の主要課題ととらえています。
- ✓ 達成率の差が大きくでてしまった項目は特に注視して取り組んでいきます。
- ✓ 全社員の取り組み次第では達成率をさらに向上させる可能性は十分にあるとみています。社員全員の取組に期待し負荷削減・コストダウン・付加価値向上に邁進します。

■ → 今期目標未達成項目（数字：達成率）

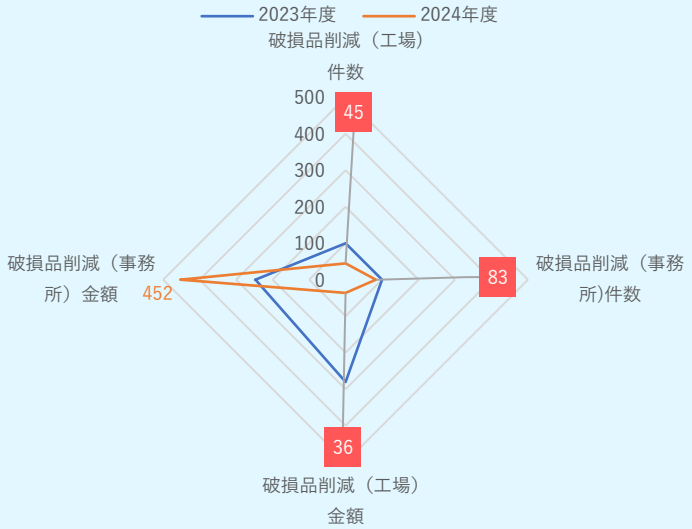
環境負荷削減目標



本来業務にも関わる目標（1）



本来業務にも関わる目標（2）



環境配慮/持続可能な社会づくりへ向けた取り組みの中から課題とチャンスを見極め、会社のさらなる発展と地域環境保全、地域・社会貢献に取り組んでいきます

2024年度活動実績と評価（個別）

Carbon dioxide

SDGs REGISTERED PARTNER NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT

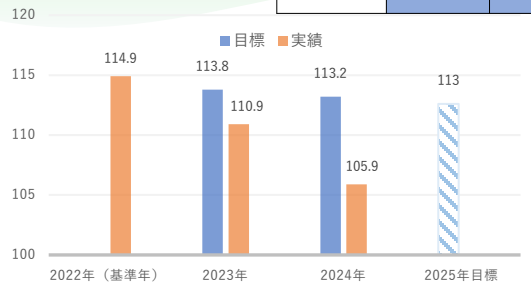
本目標は長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります（Vision2030 ）

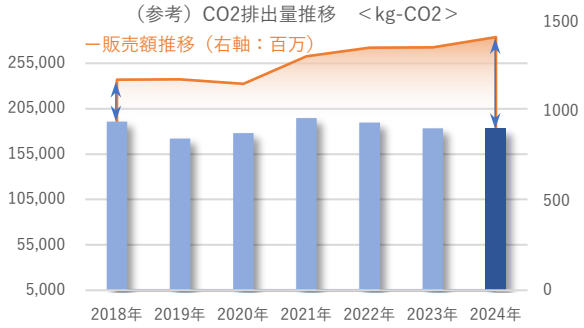
Goal -01

二酸化炭素排出量の削減（kg-C02/百万円）

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	102.5	106.4





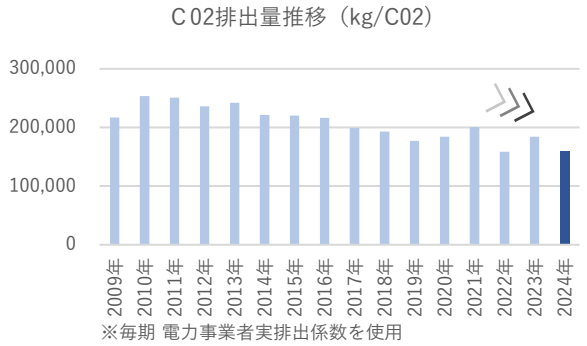
※比較のため、全ての年度に電力事業者実排出係数0.47kg-CO2/kWh（平成30年度中部電力(株)）を使用しています

>>>評価コメント<<<

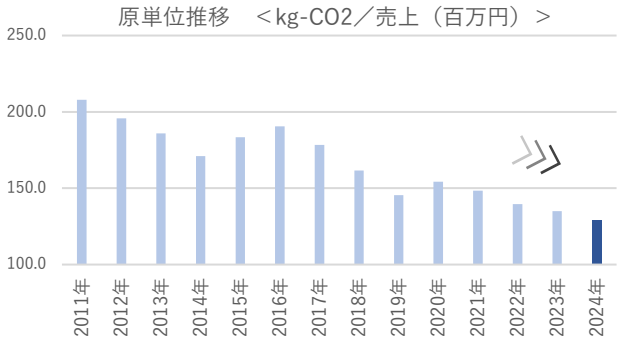
比較のために電力事業者排出係数を一定にして二酸化炭素排出量の推移を検証。あわせて販売額との対比をしてみました。近年、販売・生産は増加傾向であるにもかかわらず排出量は横ばい・減少傾向に推移しており、これまでの省エネ取り組みに加え、生産部門での生産性向上、働き方改革など最近の取組効果が反映されていると評価しています。引き続き高騰するエネルギーコストを抑えコストダウンも意識して更なる成果向上を期待しています。持続可能な社会づくりに大きく貢献する二酸化炭素排出量削減目標は当社の[Vision2030]にもリンクしている最も重要な取り組みです。

-POINT-

1. 2年続けて目標達成。取り組み成果が出てきており来期以降も達成可能な推移状況
2. 中長期での原単位削減 や二酸化炭素の排出量推移(全体、項目別）からみても大きく削減効果がでている
3. 販売は伸張しているが二酸化炭素の排出量が減少できていることは社員全員の取組成果である



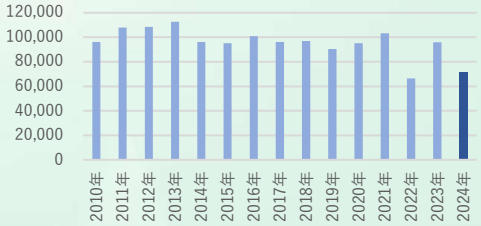
※毎期 電力事業者実排出係数を使用



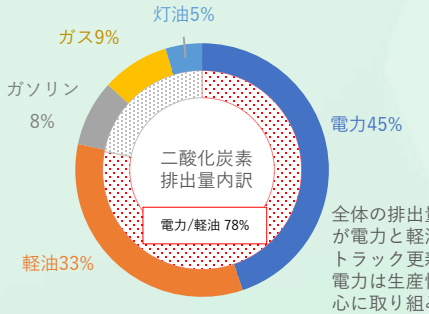
Check Point

エネルギー項目別内訳　Date

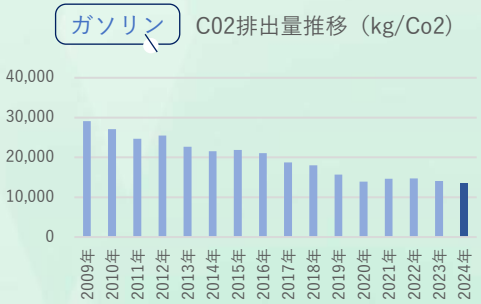
すべての項目において取り組んだ結果としての削減効果があらわれており引きつづき継続した地道な活動を進めていきます。ハード、ソフト、独自の取組で環境保全と社会への貢献に取り組みます。

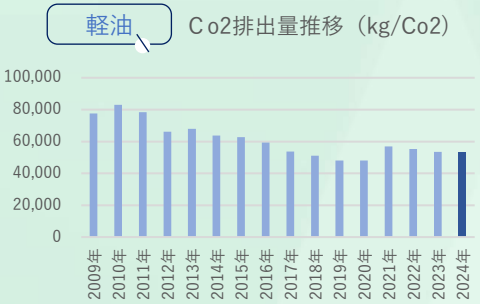


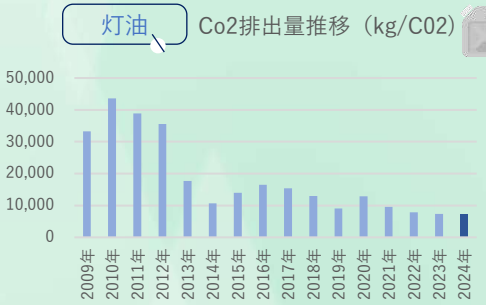
※毎期 電力事業者実排出係数を使用

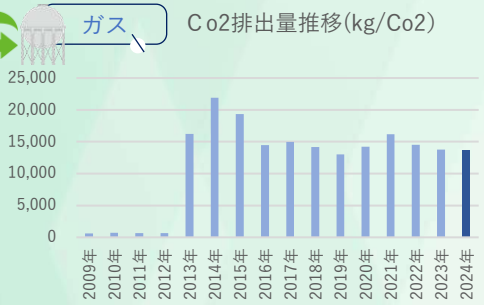


全体の排出量の約8割が電力と軽油。軽油はトラック更新を実施中。電力は生産性向上を中心に取り組みます。









ボイラーのエネルギ源 転換による効果

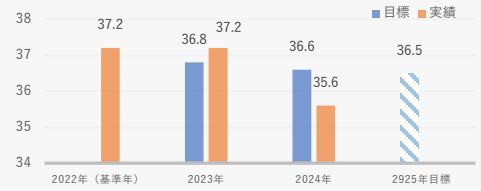
2013年にボイラーの熱源を従来の灯油から都市ガスへ切り替えました。それによりトータルでの二酸化炭素排出量を大きく削減させることに成功しています。

エネルギー項目別環境目標&実績
Environmental Targets and Results

二酸化炭素排出量削減に必要な各項目別の報告資料です

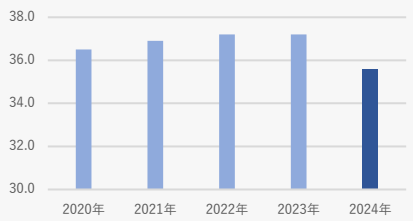
環境目標　進捗状況	達成状況	過去5年推移比較	評価コメント

■本社工場電力　対生産量比（kwh/千平米）



前期比改善

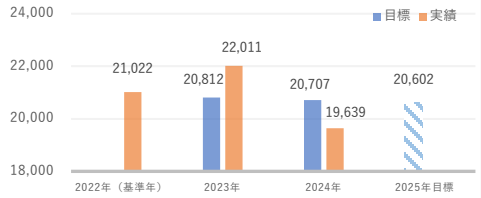
	2023年	2024年
評価	×	○
達成率%	99	102.7



Co2排出量が最も多い本社電力削減目標。今期目標達成！

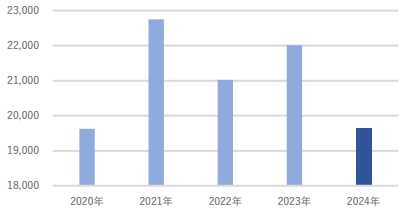
当社のCo2排出量の45%（そのうち本社が9割近く）を占める本社電力の削減は極めて重要な管理目標です。昨年度まで微増傾向で推移していましたが今期はようやく削減に成功しました。生産量の増加も影響している思われますが、今後は生産性向上、特に時間当たりの生産量の増大にも引き続き取り組んでいきます。残業削減、時間外労働時間削減に向けた取り組みも効果が出てきています。大きな改善策があるわけではありませんが、全社員の日々の小さな取り組みを積み重ねることで成果を積み上げていくしかないと考えます。“最小のエネルギー投入で最大の生産を目指す“ことに全社で取り組みます。

■塩田工場消費電力(kwh)



前期比改善

	2023年	2024年
評価	×	○
達成率%	94	105.2

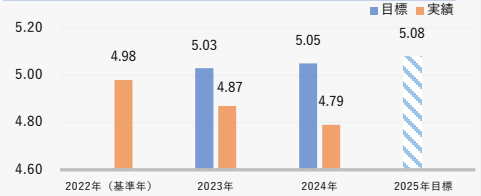


生産は増加しているが、電力消費量は低減傾向。設備更新の効果も

近年、塩田工場での生産量は増加しているにもかかわらず電力消費量はここ数年低減傾向。数年前より継続的に設備更新や照明レイアウト見直し、LED更新などを行い節電対策の設備更新の効果もみられます。ただ今後熱中症対策に向けてエアコン増設などの影響もあり大きな減少は難しいことも予想されますが各種設備更新による生産性向上に努めるとともに社員からの改善活動で成果向上に取り組んでまいります。10年前と比較すると3割以上電力使用量の削減に取り組んできています。

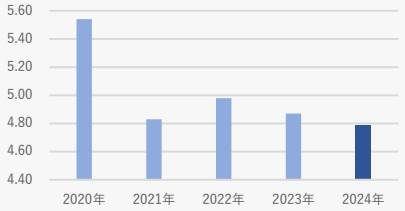
今期、省エネタイプの設備更新も実施→

■軽油　物流課　燃費(km/L)



2期連続未達成

	2023年	2024年
評価	×	×
達成率%	97	95

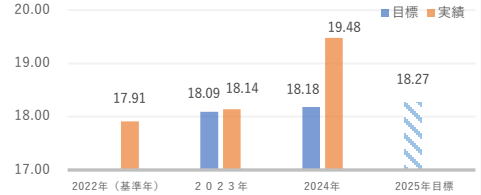


トラックの更新による影響あり。順次更新による燃費改善に期待

2021年度に積載効率を向上させるために中型トラックを大型トラックに更新しましたが、排気量が大きくなったことで燃費が悪化しました。これに対しエコドライブや配送ルートの見直しによる配送の効率化などの対応を継続的に実施しています。また老朽化している他トラックの順次更新を今期よりすすめており今期末で1台の更新が完了、来期さらにもう一台を最新型トラックに更新予定で燃費向上が期待できます。
電力に続き当社C02排出量の3割強を占めている物流部門の燃費向上に引き続き取り組んでまいります。

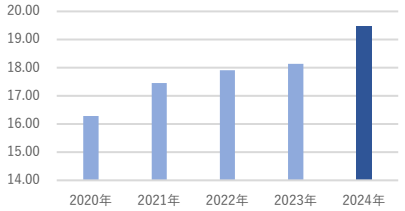
今期、更新済→

■ガソリン　営業総務課　燃費(km/L)



2期連続達成

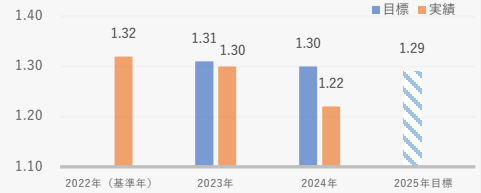
	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	100	107



全車HV化による燃費向上によりガソリン消費量大幅削減

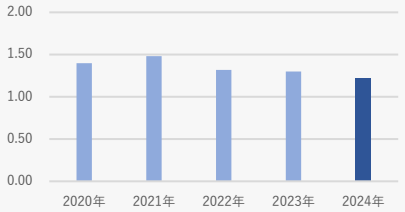
全車ハイブリッドカーを導入した効果で燃費向上が顕著に発揮できています。昨年度末に1台新型HV車を増車したがその影響もあり燃費数値は向上しています。ガソリン消費量においてもここ2年で8%減少しており、当社Ｃo2排出量の8%を占めているガソリンの消費削減＝環境負荷削減＝コストダウンに大きく貢献できており評価できる取り組み成果となっています。各ドライバーごとの燃費状況も定期的にチャックしており全員のエコドライブ意識が定着しています。今後もこの状況を維持し続けることに取り組みます。

■ガス　対生産量比(㎥/千平米)



2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	100	107



これまで未達成項目であったが近年成果向上がでている

これまで達成が困難だった目標ですが、ここ数年は低減傾向にあり、成果が見られるようになりました。近年生産量が増加傾向にあることも、この結果に繋がっていると考えられます（目標設定が生産量比であるため）。
今後は、製品ごとのボイラー使用の必要性を継続的に見直すことはもちろん、本業である生産量の拡大にも努めてまいります。また、仕入先様からの原材料入荷に関する影響も関わってくるため、協力して取り組んでいく所存です。ボイラー使用量の減少は、水使用量の削減にも貢献する取り組みにつながります。

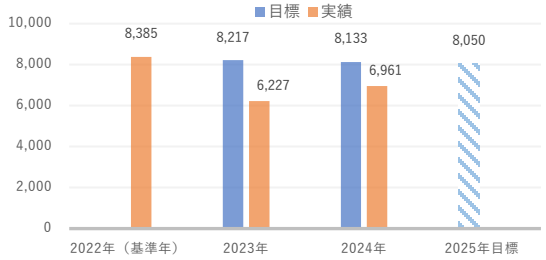
Industrial waste

Goal -02

産業廃棄物排出量の削減（kg）

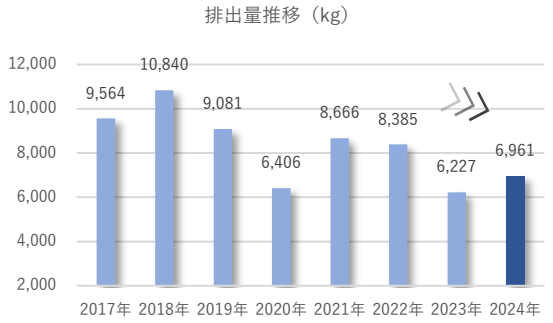
2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	124	114



SDGs REGISTERED PARTNER NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT

本目標は長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります（Vision2030 ）



>>>評価コメント<<<

項目別にみると、単年度での増減は多少見られますが、中長期的には大きな削減効果が発揮できていると評価できます。特に、数年前に廃インク処理装置を更新した影響で、汚泥排出量が大幅に減少しました。これは、処理業務の簡素化と環境負荷削減の両面で投資効果が出ていると言えます。抜型や印版の定期的な整理を行うことで、一時的に処分量が増加することはありますが、それらは織り込み済みであり、引き続き全体の排出量削減に取り組んでまいります。外部からの不要物持ち込み削減や自社での再利用活動など、これまでの地道な活動が実を結び始めていると感じています。社員一人ひとりの意識改革が進んでいることを非常に嬉しく思います。

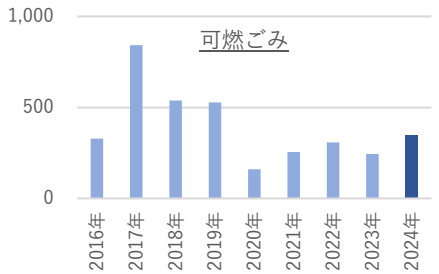
-POINT-

1. 個別項目別での増減はみられるが全体では中長期的に削減取り組み効果がでている
2. 設備更新の効果もあり最も産廃比率が多い汚泥の削減効果が顕著
3. Vision2030での目標にもつながる活動であり現状の取組み活動方針を継続していく

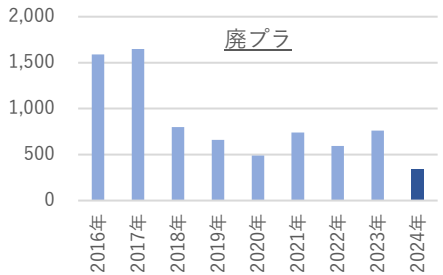
中長期排出量推移

すべての項目で削減傾向にすすんでいます

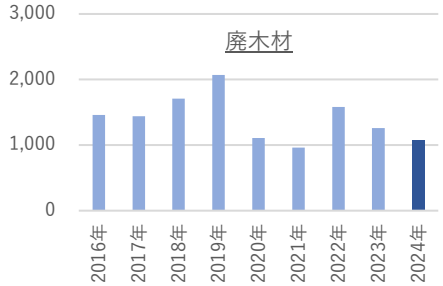
Date



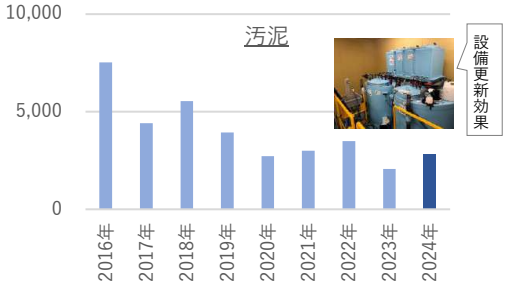
＊外部から持ち込み禁止の徹底。リサイクル活動の強化。



＊プラ再利用の拡大効果。印版処分が発生する年度は一時的に増加あり。



＊外部からの不使用材の持ち込み禁止。抜型処分が発生すると一時的に増加あり。



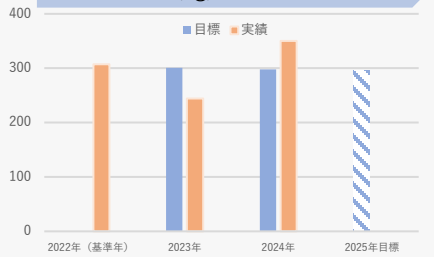
＊廃液処理機の更新を行い汚泥排出量が大幅削減

項目1

前期比悪化

	2023年	2024年
評価	○	×
達成率%	123	85

■可燃ごみ（kg）

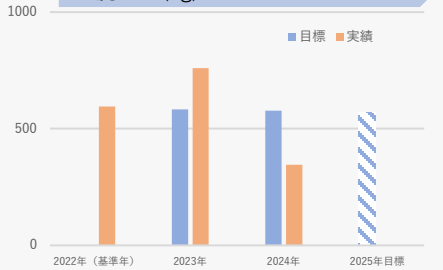


項目2

前期比改善

	2023年	2024年
評価	×	○
達成率%	77	167

■廃プラ(kg)

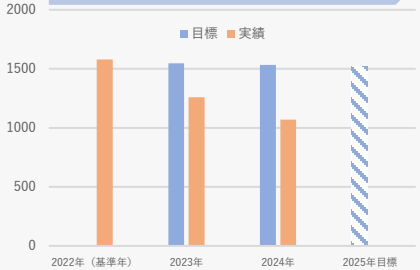


項目3

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	123	143

■廃木材(kg)

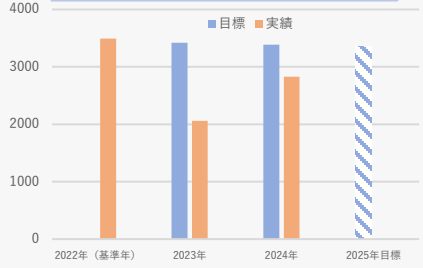


項目4

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	123	143

■汚泥(kg)

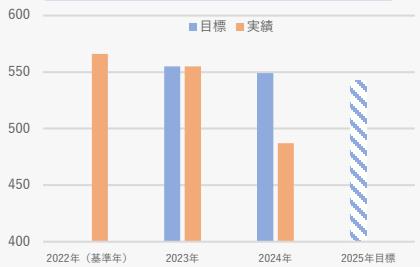


項目5

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	100	112

■事務所関係（kg）



各項目別の報告達成状況資料です

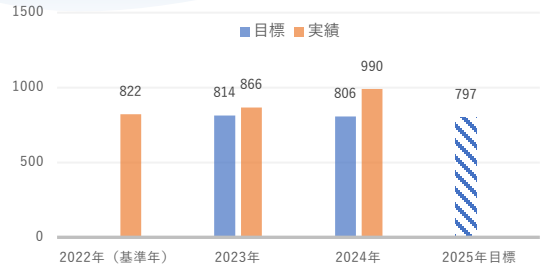
Water

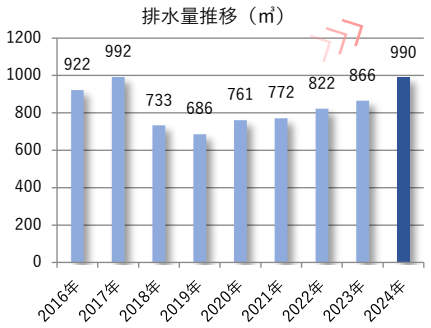
Goal -03

排水量の削減（㎥）

2期連続未達成

	2023年	2024年
評価	×	×
達成率%	94	77





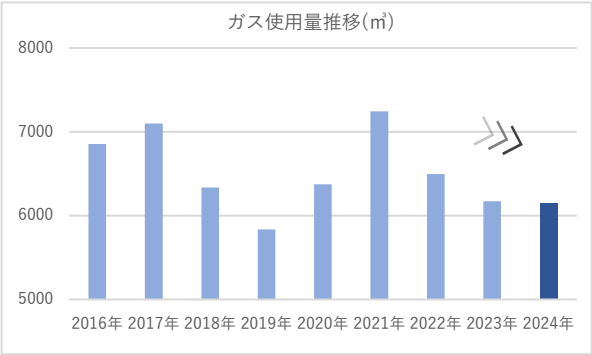
>>>評価コメント<<<

生活用水で使用する水は大きく上振れする要因はなく、多く使用する部署は製造部のボイラーと印版洗浄用であるとの認識から印版洗浄機は節水型に数年前に更新済。残るボイラーでの使用を減らすためにボイラー使用もここ数年かけ品種を絞り込み、削減活動を進めてきました。結果、熱源であるガスの使用量は削減に成功していますが、一方で水使用量は増加しておりガス使用量と比例しておらず、他に要因があるのではと推測されます。漏水懸念も含めて全社に展開し増加要因と対策を詰める必要があります。来期の大きな課題の一つです。

-POINT-

1. 直近5年が毎年消費量増加傾向で推移している
2. 水はボイラーでの使用がメインであるとの認識からボイラーの利用を可能な限り削減させてきたが直近3年間はボイラーのエネルギー源であるガスの削減とリンクしていない
3. 生活用水での利用は限られているので、ボイラー以外での利用に増加要因がありそう。工場内利用での原因追及に取り組む（印版洗浄水、漏水？等）

参考資料　ボイラー使用が水増加の原因ではない!?



来期へむけて

水使用量推移≠ガス使用量推移

⬇

「ボイラー使用を減らすと水使用量も減る」とは言えない！

⬇

水使用量増加は他に要因ありそう・・
・漏水？→設備点検
・工場内他設備？→使用箇所特定
・印版洗浄回数の影響？→検証作業

Productivity

Goal -04

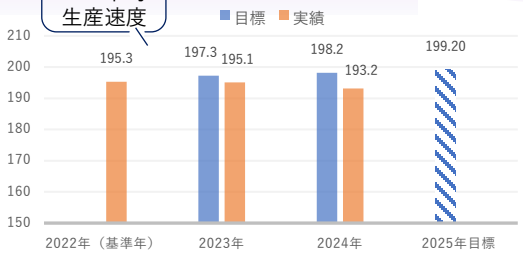
生産性向による省資源・省エネルギー

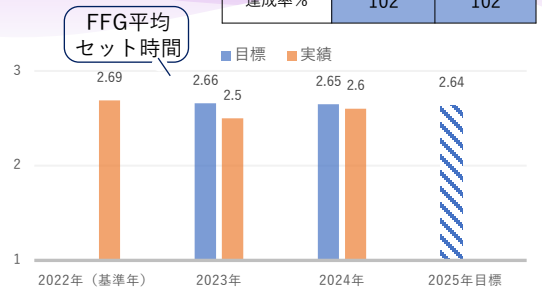
2期連続未達成

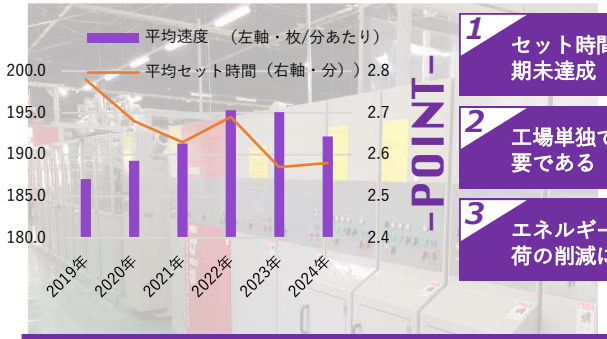
	2023年	2024年
評価	×	×
達成率%	99	97

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	102	102







-POINT-

1. セット時間は達成しているが、生産速度はわずかではあるが2期未達成
2. 工場単独での活動には限界があり、受注内容の取組改善が必要である
3. エネルギーの多くを消費する生産部門の生産性向上が環境負荷の削減には不可欠という意識のもと会社全体で取り組む

>>>評価コメント<<<

生産部門の生産性向上に努めることはコストダウンへの貢献とともに環境負荷削減にもつながる取り組みであると社員全員が認識して活動を進めています。しかし、生産部門単独の活動には限界があり、受注内容が大きく影響していきます。多品種少量生産ですと生産速度の向上は見込めません。その影響がここ近年顕著にデータにも反映されてきています。販売部門は物価高騰に関わる価格改定の見直しを進めておりますが同時にロットの見直しもすすめ、生産部門では可能な限り印刷変更頻度を下げる（無地連続生産）等作業改善に引き続き取り組んでいきます。各種生産設備も定期的メンテナンスを行い、早め早めの対応を行っております。常に最良の設備状態を維持し歩留・ロス低減に取り組んでおります。付加価値確保に直結する重要なテーマであり引き続き全社で取り組みます。

来期へむけて

生産部門の取組みだけでなく販売部門においても受注内容改善等の取組も進める

設備状況の最良状態を維持するための保守メンテ活動の強化

生産性向上は環境負荷削減につながるとともに付加価値確保の必須要件であり全社の活動が不可欠

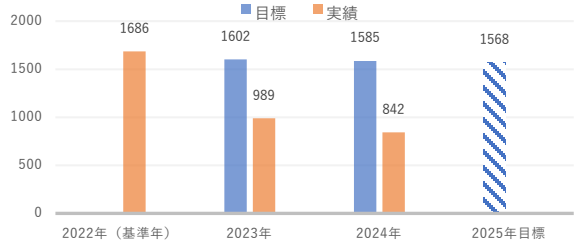
Overtime

Goal -05

時間外労働時間の削減

2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	162	153



>>>評価コメント<<<

取組成果を上げるには生産性向上がまず必須事項であるために設備の更新、導入を継続的にすすめてきた成果が発揮できています。同時に業務改善や部署間を越えた交流・応援がなければいけません。業務の時間は集中し成果を上げていく、プライベートは充実したものにするという切り替えを一人一人が強く意識して取り組んできた賜物であると感じます。あわせて制度も充実させ時間単位当たり有給の導入、産休育休の充実、お互いに助けあう雰囲気づくりなど、これまで時間をかけて取り組んできた成果が出ています。同時に結果として環境負荷削減効果に大きく貢献できております。

-POINT-

1. 全目標で最も達成率の高い項目で環境負荷削減と社員の負荷低減・ワークライフバランスの取組みに大きく貢献中
2. 社員の心身とも健康な職場づくりに取り組みはじめ、全員の協力・理解のもと販売を伸ばしながらも大きな達成率
3. 働きやすい、休みやすい制度の導入もすすめ社員満足度の向上にも取り組みながら持続可能な企業づくりに取り組む

TOPIC

2025 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 中小規模法人部門

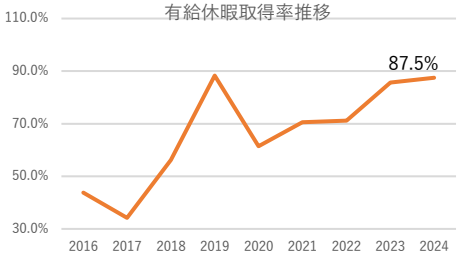
＊健康経営優良法人認定制度とは日本健康会議が認定する顕彰制度で、優良な健康経営に取り組む法人を「見える化」し、社会的な評価を受けられる環境の整備を目的としたものです。

このたび、経済産業省が定める「健康経営優良法人認定制度」において健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）に認定されました。

当社では、従業員一人ひとりが持てる力を十分に発揮し持続的な企業価値の向上を目指すには、従業員が心身ともに健康であることが最重要だと考えています。社員のワークライフバランスを考慮した有給休暇消化率の向上・時間外労働時間の削減、生活習慣病の健診促進、飲酒・喫煙率の減少、ハラスメント撲滅など適正な働き方と環境づくりに向けた取り組みをすすめ健康で長く働きやすい職場づくりに取り組んでおります。

参考資料

有給消化率も大きく向上



SDGs REGISTERED PARTNER NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT

長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります

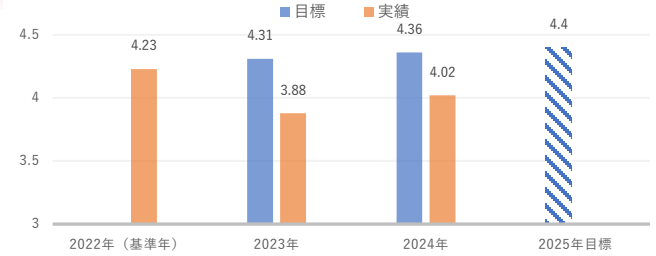
Stock

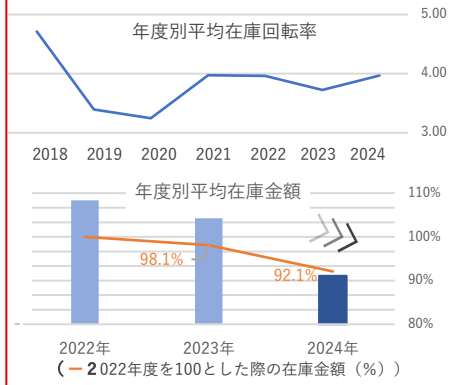
Goal -06

在庫回転率の向上

2期連続未達成

	2023年	2024年
評価	×	×
達成率%	90	92





>>>評価コメント<<<

ここ数年、在庫金額の削減取り組みは毎月のPDCAにより少しずつ見えてきてはいますが、回転率の向上にはまだまだ効果が出てきておりません。内訳は段ボール製品と強化段ボールの製品在庫が一時的に増加しており、お客様への最低ロット交渉を進める必要があります。また当社で在庫保有し日々小ロット納入しているユーザー様もあるために販売部門が納入条件の交渉を進めなければなりません。在庫は販売機会を逃さないため必要な場面もありますが、各個別の中身の精査をすすめ改善すべきは削減に向けて取り組んでいきます。キャシュフローにも関わる重要なテーマでもあります。

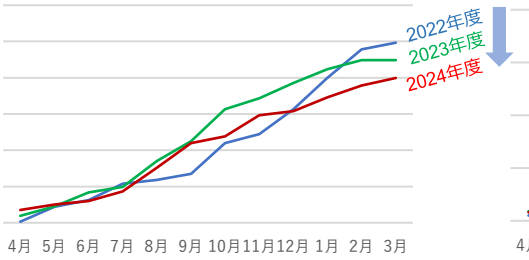
-POINT-

1. 在庫の削減効果は少しずつ見えてきてはいるが長期不動在庫が一定数散見され目標未達成。
2. 需要動向、見通しがつかめない情勢が継続しており顧客とのコミュニケーション、ロット見直し交渉が必要
3. 在庫処分は環境負荷大、キャッシュフロー悪化、会社経営にとっても需要な項目であるため地道に改善活動を継続

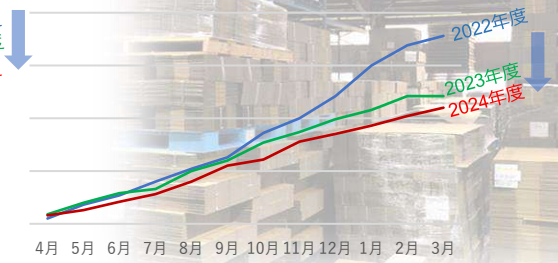
Check Point

毎月1回、関係者全員に前月度1度も出庫していない在庫リスト（品名、金額、件数管理）のＰＤＣＡ確認を目標設定を行い取り組んでいます。
その結果、2期連続で金額、件数ともに成果が出始め減少傾向で推移しています。需要動向の把握、顧客交渉を伴う厳しいものですが引き続き取り組みます。

1か月間出庫がない在庫金額累計



1か月間出庫がない在庫件数累計



Loss reduction

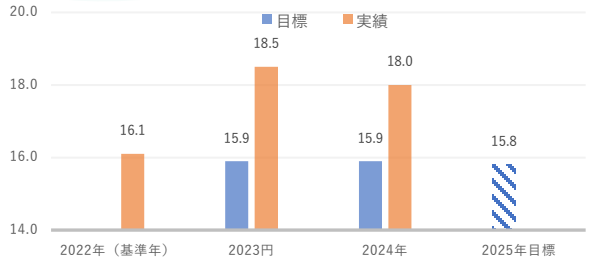
Goal -07

減容チップの排出量削減（サンテックフォームロス削減）

(kg/㎡)

2期連続未達成

	2023年	2024年
評価	×	×
達成率%	86	88

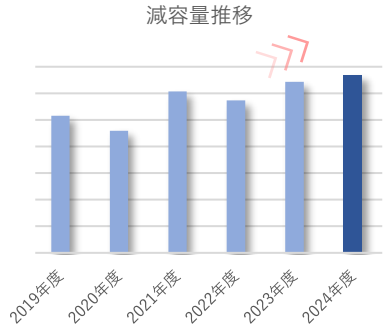


-POINT-

1 「ロスは利益を捨てている（ロスは宝）」意識のもとロス低減は製造業の使命であるとともに環境負荷低減の大きなカギ

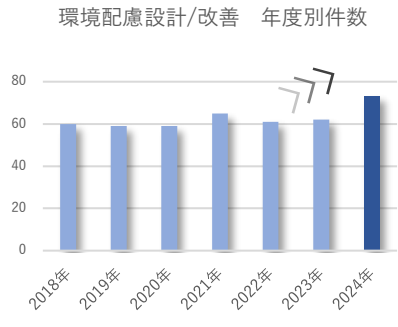
2 近年生産使用量が増加していることに比例して減容量も増加しており原単位当たり削減目標は未達成

3 製販ともに原反からの端材ロスを少なくする設計や加工前材料取り改善、ロス材の再活用対策が急務



>>>評価コメント<<<

2期連続で目標未達成。主要因としては、近年生産量が増加しておりそれに伴う端材・ロスの減少対策が追い付いていないことが要因とみています。サンテックフォームは決められた原反サイズから切り出しを行い、そこから抜きやカット加工などの複数工程がはいります。ですので設計段階でのロス低減の型作成や最小限ロスでのカット加工など製販共の対応が目標達成には必須となります。またロス材の再利用等もさらに検討する必要があります。ロスにも原価コストが発生しておりこの目標達成には環境負荷削減とともに自社の負付加価値拡大にも大きくつながる重要なものとなります。今年以上の成果達成を期待します。



>>>評価コメント<<<

年間72件以上と現環境目標はこれまでより大きな目標値を挙げて取り組んでおり昨年度は未達でしたが今期は達成。包装設計知識習得と経験・センス・各自の向上心が求められ、すぐには成果が発揮しにくいですが日々の地道な包装設計力レベルの向上を期待します。他社との違いを打ち出すための独自の提案力アップが当社の強み・特徴となってきます。
来期以降は製造部での環境保全に貢献する工程改善にも期待するところであります。今期はFSC®原紙の採用拡大や新たにバイオマス商品の提供も始まり地域のお客様に喜んでいただける場面が増え取り組み成果も向上してきました。

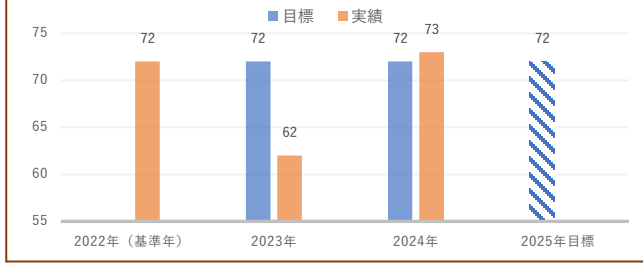
Design improvement

Goal -08

環境SDGsに配慮した設計・提案、工程改善(件数)

前期比改善

	2023年	2024年
評価	×	○
達成率%	86	101



-POINT-

1 上流部分の設計段階で環境に配慮した商品開発という本来業務に直結する重要な環境目標。時代に即した社員の包装知識と設計レベルの向上が不可欠

2 他社との差別化、自社の強みに繋がるものであり付加価値増加に貢献。今期は前年度の反省をもとに達成

3 今後、設計のみでなく環境に配慮した工程改善の取組にも期待する

参考資料　ロスは産廃からＰＥ袋の原材料へ切替開始！

リサイクル/サーキュラーエコノミーへつなげる！

連携事業

サンテックフォームは原反から加工を行っていきます（段ボールは発注寸法を指定できるためロスが少ない）。加工時にはロス・端材は必ず発生しますが、それを減容・チップ状にし昨年度までは産廃として処理していました。ところが昨年度末から再生ＰＥ袋の原材料とし再利用し大きく環境負荷削減につながっています。今後はさらなるサーキュラーエコノミーに貢献すべく使用後の製品を活用できないかメーカー含め検討してまいります。

原材料入荷

複数工程を経て・・・

製品加工

ロス・端材を減容

チップ状に

協力会社へ

協力会社様で引き取り後、再生ＰＥ袋の原料として袋に生まれ変わっています

//今期取組の一例です//

- ＦSC®段ボールの採用拡大
- ワンウエイ梱包からリターナブル化へ
- 部品の共通化による資材数低減
- ナフサ由来からバイオマス由来への切り替え
- 紙化への切り替え　紙製パネル・什器販売
- 軽量化・薄物化・容積減による物流効率化

オール紙製梱包材への切り替えを推進しています

TOPIC

＊当社の主要販売品目の一つである発泡緩衝材であるサンテックフォームについて、サトウキビ由来の「**バイオマスグレードV45**」を本格的に販売開始いたしました。

従来の商品に比べライフサイクル全体において、大幅なC02排出量の削減に貢献できます。お客様への積極的PR活動と販売促進に取り組み環境配慮商品の拡大に向け取り組んでまいります。

ナフサ由来から植物由来のグレード切替提案すすめています

今期よりユーザー様での採用開始

Claim

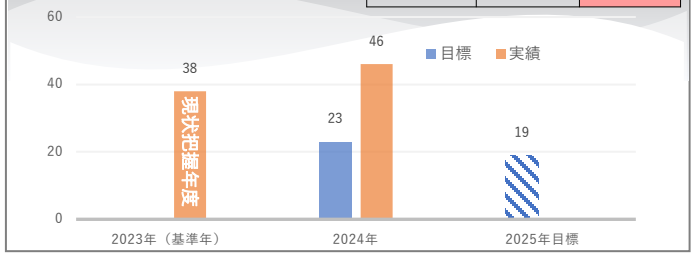
Goal -09

顧客クレーム削減（件数）

未達成

	2023年	2024年
評価	現状把握年度	×
達成率%		50

社外流出品



目的
- ◆信用信頼向上
- ◆環境負荷削減
- ◆自社の課題明確化
- ◆お客様満足度UP
- ◆工程改善/商品開発に活かす
- ◆相手の立場にたった商品づくり

-POINT-

1. 社外流出しお客様から直接指摘されたクレーム件数を低減させることは環境負荷を低減させるのみでなく会社の信用に影響を与える重要なテーマ。原点に立ち返り全社で取り組む
2. 達成率は目標の半分。わずかな不注意・ミス・見落としの積み重ねが散見され各部署で再発防止策の見直しが求められる
3. 今期の反省をもとに社員全員の来期以降の業務に期待しお客様に喜んでいただけける会社づくりに取り組む

今期クレーム内容	
✓ 接合ずれ	✓ 印刷不良
✓ 数量不足・違い	✓ 納期遅延
✓ 手配ミス	✓ 罫線割れ
✓ キズ、破れ	✓ 寸法違い

>>>評価コメント<<<

昨年度を現状把握年度としてお客様から直接頂くすべての苦情・クレームを集計し、それを元に今期の目標件数を23件以内としましたが結果は倍増の件数結果となってしまいました。いただいた内容はほぼすべてが上記記載の事案となります。原因は思い込み、仕様書の見落とし、ちょっとした不注意など本来防止できるはずのものがほとんどでした。また発生個所特定できない事案もありましたが、いただいたクレーム事案はすべて記載登録して社内展開・掲示を行なっています。
設備起因によるものに対しては設備補修を都度行い対策済です。
クレーム品の多くは営業対応・破棄・材料再発注・再製作、再納品が発生し環境への負荷や対応コストを増大させます。

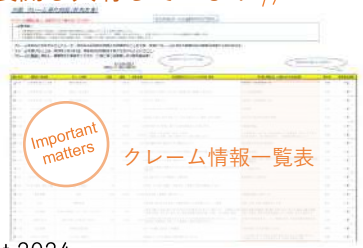
加えてなにより自社の信用信頼を失墜させることとなります。些細な苦情に対してもカウントし非常に厳しい目標ではありますが当社に顧客視点での問題点・要望を教えていただくことになりますので、社員全員の品質意識の向上を図っていきます。

クレームを受けることは、前向きに捉えれば、顧客視点の問題点を教えてもらえたということ

事案のほとんどがロットの中の数枚の不良であり、取り組み成果としてかつて時々発生していたロットアウト（ロットすべてが不良）は近年ほぼ発生していません。設備投資と社員の意識向上による成果であると評価できます。今期より始めたばかりの重要な目標として今後も継続していきます。

毎月全苦情情報を社内展開し共有しています

クレーム情報を社内ネット・掲示で共有することによって、社員全員が自社の問題点を認識することができ、実際にクレームを受けた部署以外の業務の改善にも水平展開することで活かしています



来期へむけて

- 毎月全社員へすべての情報展開を行い再発防止強化実施
- 発生抑止につながる設備投資検討
- 複数による確認作業

Goal -10

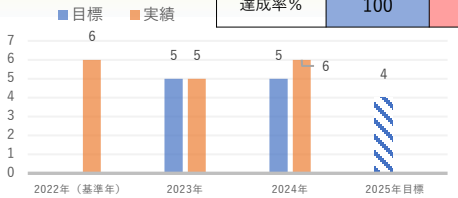
不良率低下による省資源、廃棄物削減【破損品削減】

非社外流出含

前期比悪化

	2023年	2024年
評価	○	×
達成率%	100	83

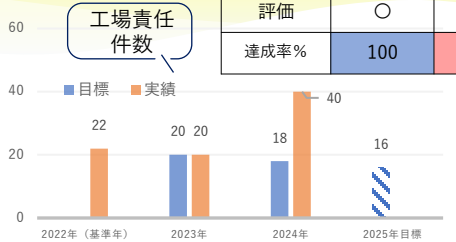
事務所責任件数



前期比悪化

	2023年	2024年
評価	○	×
達成率%	100	45

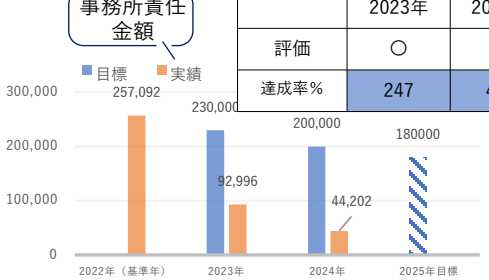
工場責任件数



2期連続達成

	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	247	452

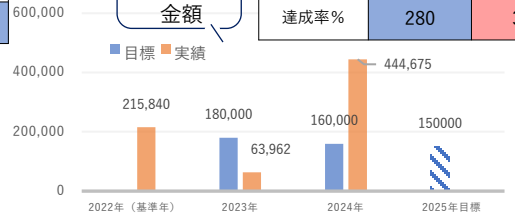
事務所責任金額



前期比悪化

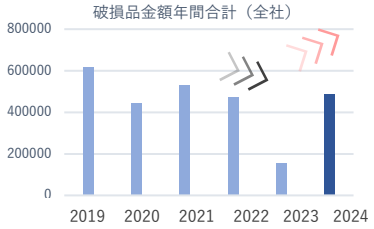
	2023年	2024年
評価	○	○
達成率%	280	36

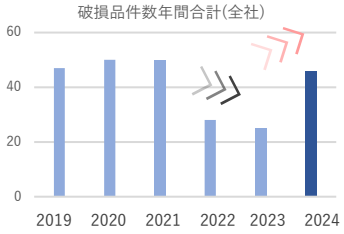
工場責任金額



-POINT-

1. 昨年度までは段階的に低減できてきたが今期は件数・金額ともに増加（全社レベル）し3期前のレベルに悪化
2. 環境負荷の悪化と付加価値低下の一因ともなっており特に工場責任の発生事案が増加。来期の大きな課題とする
3. クレーム事案同様、防止できたはずの要因件数が多いので今一度手順確認、次工程はお客様の意識を再教育





>>>評価コメント<<<

昨年度までは取り組み成果を発揮し目標達成できましたが今期は件数・金額ともに大きく増加し未達成に。クレームにつながる危険事案が前年比増となり全部署での取り組み再確認を指導しました。特に製造責任が悪化しているのですべての業務に慎重な取り組みをお願いします。クレーム事案同様、単純なミスが多くを占めていることから各チームごとの業務手順再確認を行いながら次期以降に低減させる活動を行っていきます。自ら付加価値を減少させてしまう非常にもったいない残念なことです。
安全安心な職場（労災事故ゼロ）・５Sにも配慮した破損品を発生させない信用信頼ある生産部門づくり、社員の育成に取り組んでいます。

Defective product

Initiatives towards a sustainable society

持続可能な社会へ向けた取組み（～2024）

社員を大切にし持続可能な原料調達からリサイクルまで一貫した循環型のモノづくりで社会・地域へ貢献する

2008年からエコアクション21を認証取得し環境活動をスタート。その後、2018年から持続可能な社会づくりにも取り組み始めました。これまでの主な取り組みをご紹介します

Procurement of raw materials 原材料調達

持続可能な調達に貢献するFSC®森林認証の取得（段ボール/紙器製品）

認証番号	SGSHK-COC-350217
認証対象製品	段ボール、紙器製品
FSC認証種別	FSC/COC認証
認証取得日	2018年2月27日

責任ある森林管理のマーク

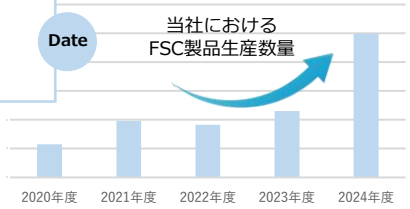
FSC®認証ロゴマークを包装資材に表示することにより、環境に配慮した包装材を使用していることを国内、海外問わず消費者に広く知ってもらうことができます。

持続可能な森林資源を引き継ぐために、当社は本社工場にて2018年2月27日にFSC®森林認証(COC認証)を取得し、お客様に持続可能な調達への積極的採用を推進しています。
環境目標においてもFSC®認証製品の採用の拡大を設定し販売部門中心に取り組んでいます。

FSC®認証は、適切に管理された森林やその森林から切り出された木材の適切な加工・流通を証明する国際的な認証制度です。FSC®にて、全ての加工製造・流通経路において材料がきちんと管理されていることを審査・承認された製品にのみ、独自のロゴマーク（トレードマーク）を適用することができます。

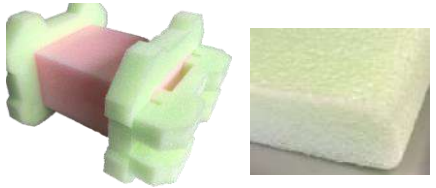
当社で製造した製品には当社のFSCライセンス番号が印刷されます

今年度はＦSC生産数量が大幅増加
【2020年度比で4倍以上】



待望のサンテックフォーム®V45（バイオマスグレード）発売！

NEWS



薄い緑色のバイオマスサンテックフォームV45の原反より社内で加工することで緩衝材製品が出来上がります

主要販売品目の一つである発泡緩衝材であるサンテックフォームについて、サトウキビ由来の「バイオマスグレード」V45を今期より販売開始いたしました。
従来の商品に比べライフサイクル全体において、大幅なC02排出量の削減に貢献できます。お客様への積極的PR活動と販売促進に取り組み環境配慮商品の拡大に向け取り組んでまいります。
従来のナフサ由来原材料からバイオマス度85％のバイマス原材料への切り替え提案を進めています。
今期より主要ユーザー様での切り替え採用が進んでおります。引き続きさらなる環境配慮商品の拡充とご提案に取り組んでいきます。

サンテックフォーム®V45 製品特性

■サンテックフォーム®V45 素材　＊メーカーHPより

- サトウキビから生産されたバイオマスポリエチレンを使用
- バイオマスマーク商品認定

バイオマス度85％の環境配慮商品です

バイオマス No.220265

サンテックフォーム®V45CFP 削減量

■サンテックフォーム®V45 CO_2排出量

既存サンテックフォーム®B45をサンテックフォーム®V45に切り替えた場合CO_2排出量はフォーム製品1kgあたり4.5～5kg※1削減

※1 LDPE製造（原材料輸入、輸送）を含む

Recycle リサイクル

主要生産品目であるダンボールのロス・端材は100%リサイクル

当社の主要製造販売品目であるダンボールは、使用後は100%リサイクルが可能なサステナ資材です。
ダンボール古紙は製紙会社にて再びダンボール原紙に生まれ変わります。ダンボール原紙の80～100%はダンボール古紙で出来ており、循環型社会には欠かせない優れた“リサイクルの優等生”です。生産工程で排出されるダンボール端材は100%すべて古紙として集約し、古紙業者を通じて製紙会社へ持ち込まれ再び段ボール原紙として生まれ変わっています。

製造工程で発生する細かな端材やロス材も100%リサイクルしています

強化ダンボールの端材も同様に100%リサイクルを実施。あわせて生産時のロスを限りなく最小にする取り組みも進めています。

ダンボール古紙は再び段ボール原紙の原料として生まれ変わります

限りある資源を大切にし循環型社会に貢献する

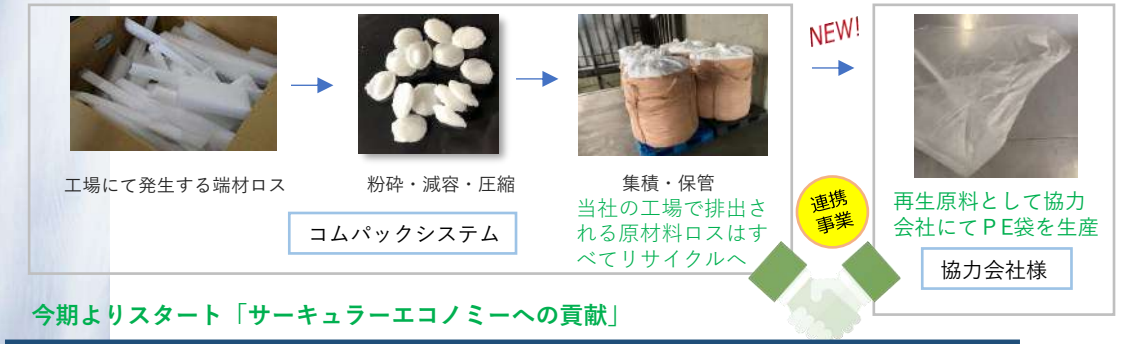
ダンボールはリサイクル

当社は、最終消費者へリサイクルの循環を促すために、ダンボールへのリサイクルマークの印刷を積極的に推奨しており現在、印刷があるケースにはほぼすべての商品にリサイクルマークの印刷を実施しております。
コムパックシステムは持続可能な原料調達からリサイクルまでの一貫した循環型のモノづくりに取り組んでおります。

Recycle リサイクル
Circular Economy サーキュラーエコノミー

これまで産業廃棄物となっていたプラ端材を再生品の原材料として通期で活用。他社との連携で新たな取り組みがスタートしています！

NEWS



今期よりスタート「サーキュラーエコノミーへの貢献」

今期より両工場での生産品の「端材はすべて資源」として活用されています

発泡ＰＥ緩衝材工場においては最小限の使用量で最大効果の緩衝設計、そしてこの度の産業廃棄物「ゼロ」を実現し、サーキュラーエコノミーに貢献する製品づくりで持続可能な社会づくりへ貢献します

主要製造品目のひとつである高機能発泡緩衝材サンテックフォームについては、決まった原反寸法より切り出し等を行うために、端材・ロスは必ず発生します。設計段階からそれらを最小にする取り組み・設計をすすめており生産工程においても改善活動をおこなうことで端材の最小化に取り組んでおります。

発生した端材については減容機に投入し粉砕・溶融・圧縮をしチップ状として排出しこれまでは産業廃棄物として処理をしておりましたが、今期より協力会社様へ引き取りをしていただき新たなＰＥ再生袋の原材料として活用する取り組みをスタートしています。

従来産業廃棄物であった発泡緩衝材端材が、再生PE製品の原材料として再利用するということで、非常に大きな環境負荷削減への取組となっています。この度の協力会社様との連携により完全なリサイクルフローが確立できたことになります。本社工場/塩田工場ともに生産品の端材ロスはすべてリサイクル材として活用されることとなりました。環境コミュニケーション活動の一環で取り組めた事例です。

health management 健康経営

健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）認定

今年度、経済産業省が定める「健康経営優良法人認定制度」において健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）を認定。

経済産業省では、健康長寿社会の実現に向けた取組の1つとして、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取組を戦略的に実践する「健康経営」を推進しています。
「健康経営優良法人」は、この健康経営を実践している企業等が社会的に評価される環境を整備することを目的に、平成28年度から、企業規模別に「大規模法人部門」と「中小規模法人部門」の2部門において、各設問への回答に基づき日本健康会議が認定しています。

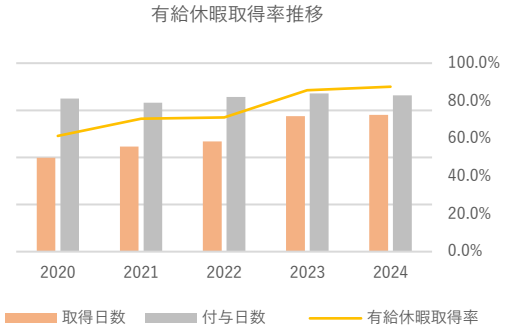
社員は大切な財産。社員それぞれが最大限の能力を発揮することが企業の持続的発展に繋がる。社員の心身の幸福を追求し持続可能な会社づくりに取り組む

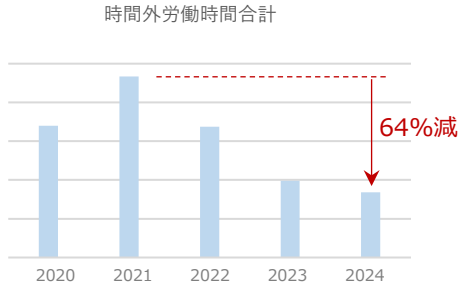
当社では、従業員一人ひとりが持てる力を十分に発揮し持続的な企業価値の向上を目指すには、従業員が心身ともに健康であることが重要だと考えています。
社員のワークライフバランスを考慮した有給休暇消化率の向上・時間外労働時間の削減、生活習慣病の健診促進、飲酒・喫煙率の減少、ハラスメント撲滅など適正な働き方と環境づくりに向けた取り組みをすすめ健康で長く働きやすい職場づくりに取り組みます。
今後も社員一丸となり、健康経営の促進並びにESGの取組みを積極的に推進し持続可能な会社づくりに取り組みます。

今年度で終了する3か年中期経営計画期間中は「労働災害ゼロ」を達成し、来期からの新中期3か年計画年度へゼロ継続を引き継ぎます。社員の安心安全な職場づくりにも取り組んでいます。

Date

有給休暇消化と時間外労働時間削減に向けてここ近年注力し社員の心身の健康配慮に取り組んできました。業務の見直し、生産性向上、多能工化、ＤＸ化など引き続き社員とともに更なる成果を目指し取り組んでまいります。仕事だけでなくプライベートの充実も応援していきます。





Equipment 設備

環境負荷を低減させ持続可能な社会づくりに貢献する継続的な環境&生産設備投資

各種環境負荷を低減させるために、これまで15年以上にわたり各種設備投資を実施。優先順位をつけた段階的・継続的な投資の積み重ねにより中長期的にその効果が発揮できるようになってきています。

>>>太陽光発電

本社工場、塩田工場とも太陽光発電を設置。本社工場の事務所電力は太陽光での発電を使用しています。

>>>LED照明

本社工場、塩田工場ともＬED照明に切り替え。電力消費量大幅削減に貢献しています

>>>HV/トラック入れ替え

社有車はすべてＨV化。トラックも順次更新中。来期も今期に続いて更新予定。燃費改善に貢献します。

>>>排水処理機/防音壁

使用済のインクを処理するための排水処理機更新。排出基準の順守、万全の漏洩防止策実施。近隣の方のために防音壁も設置。

>>>省エネ型設備更新

生産性向上はもちろん、省電力型設備更新を継続的に実施。ランニング消費量が大幅に低減。

>>>熱源転換

ボイラーのエネルギー源の転換によりＣo2排出量の大幅低減に貢献しています。

Product development 商品開発

環境配慮型製品の設計・開発への取組み

環境目標の項目でもあり、本来業務への取り組みとリンクさせる活動の一つとして「環境配慮型製品の設計・開発の取り組み」を推進しています。限りある資源を大切にするために省資源、軽量化、部材共通化、リサイクルしやすいる設計など様々な観点からお客様に環境貢献につながるご提案を行っております。成果として様々な環境配慮設計商品が評価され、国内のみならず海外の包装コンテストにも数々受賞し他社との差別化/当社の強み・特徴となっています。

GOOD PACKAGING

＊日本パッケージングコンテスト：
我が国最高峰のパッケージングコンテスト

＊Asia star:
アジア地区の
パッケージングコンテスト

＊ワールドスター：
世界最高峰のパッケージングコンテスト

2008年にエコアクション21を認証取得し環境貢献につながる商品開発を強化し、これまで日本パッケージングコンテスト7回、アジアスター賞5回、ワールドスター賞を２回受賞し、当社の付加価値向上にも大きく貢献しております。

◆受賞詳細は「環境配慮商品開発に関係する外部表彰のあゆみ」ページも参照してください

Check Point

>>>開発にあたり重視する設計視点と効果<<<

これまで様々な視点・観点から主に環境に配慮した包装資材をご提案・ご提供してまいりました。
以下にその観点・ポイントを挙げています。今後も更なる商品開発をすすめお客様に喜んでいただける時代の先を行くパッケージング提供を行ってまいります。

オール紙化への切り替え	環境負荷削減効果
環境対応原材料への切り替え	コストダウン効果
材料使用量の削減/最少化	作業性向上　効果
梱包容積の最少化提案	2024年問題対策
リターナブル化提案	付加価値付与効果
廃棄物の最少化提案	
梱包資材の共通化提案	
輸送・保管スペースの削減提案	

効果として・・

>>>ロス低減（環境貢献）につながる設備投資

近年の設備投資により品質改善、生産性向上はもちろんのこと、環境負荷を大きく低減させることに成功しています。画像検査装置も導入済でロス低減＝環境負荷削減につながっています。特に塩田工場においては直近5年ですべての設備更新を行いＮＣ化の効果もありロス低減に大きくつながり、付加価値の向上効果を大きくでています。CADCAMによるロス低減にも取り組んでおります。

災害時用ダンボールベッド、間仕切り/被災地支援

>>上田市　東御市　青木村と災害時における物資供給の協力に関する協定を締結<<

ダンボールの持つ優位性を活用しています

- 「軽さ」と「強さ」
- 1度に大量生産が可能（備蓄の必要性が少ない）
- 使用後はﾘｻｲｸﾙ100%なエコ資材

理念である「地域への貢献」「地域との共生」に通じる重要な取り組み

当社は現在当社が位置する長野県上田市、近隣の東御市及び青木村と「災害時における物資供給の協力に関する協定」を結んでおります。万が一地域で自然災害等が発生した際には速やかにダンボールベッドおよびパーテーションを供給しエコノミークラス症候群対策、避難所の質の向上に貢献してまいります。

地域での災害等発生時には、速やかにダンボールベッド/間仕切り提供し活用していただくために定期的に防災訓練等を通じて市民の方々に組み立て方法、使用方法を指導しており地域の方々の避難所生活の質の向上に貢献してまいります。防災訓練ではダンボールベッドを展示し地域の皆様へ作り方や使用時の説明をさせていただき実際にダンボールベッドを体験していただいております。
訓練を通じ地域行政の方々とも連携強化を行い防災力の向上に努め、当社理念でもある「地域貢献」に取り組んでまいります。

これまで長野県総合防災訓練や上田市・地元自治会の防災訓練に参加し地域の人々と交流しながらダンボールベッドの組み立て方、使い方を指導しています。

地域連携

公立大学法人長野大学と連携し２０２４年に発生した能登半島沖地震の被災地支援活動に協力しました

2024年春、日頃様々な面でお付き合いのある公立大学法人長野大学よりの声掛けにより、正月に発生した能登半島地震の被災地支援活動に共同で協力させていただきました。
避難所で最も必要なものという声をいただき、整理棚と机を強化段ボール（ハイプルエース）を利用して製造し無償にて提供させていただきました。
大学の先生と生徒さん達が被災地に持参し、被災者の方々と接しながらワークショップを通じて支援活動を行いました。
当社理念の一つである『社会貢献』への取り組みとして当社の保有資産・資源を活用して可能なことであれば引き続き積極的に支援活動を行ってまいります。包装資材以外の部分でも社会へ貢献できることは当社にとって貴重な財産となっています。

大学生と被災者の方々がワークショップ交流を通じて製品を作り上げ被災された方々が前向きに生活できるよう、その一端を担わせていただきました

能登半島地震

長野大生ら被災地で支援活動

避難生活の現状とニーズ調査も

長野大学社会福祉学部の教員と学生が能登半島の石川県宝達志水町と輪島市の被災地で支援活動を行った。コムパックシステムと共同開発した強化段ボールの整理棚と机を使ってもらい、避難所の質の向上を目指した。1月21日から29日まで能登半島地震の被災地に入り、避難生活のニーズ調査を行った。

現地では被災地支援活動している青山学院大学と連携しながら活動した。

長野県内の段ボール製造・販売会社のコムパックシステムが能登復興支援のため段ボールの整理棚30台と机を提供した。能登町立松波中学校の体育館で、避難所の意見聴取と学生が協力して組み立てた。

強化段ボールの整理棚と机提供

コムパックシステム

学生と避難所の希望者で強化段ボールの棚と机を組み立てるワークショップ

地域の新聞等でも今回の記事が掲載され、多くの方々との連携がさらに進展できるよう取り組んでいきます

強化ダンボール製の棚と机ですので、非常に強度があり移動も簡単であり使用後は100%リサイクルできるということでその特性を活用して更なる可能性の追求をしていきます

環境にも人にも優しい強化ダンボール 【ハイプルエース®】を活用した当社初の福祉関連商品で社会に貢献（公立大学法人長野大学との連携商品）

長野県上田市の公立大学法人長野大学の前社会福祉学部長の繁成剛教授が構想・デザインを練り、当社で図面データ化、保有設備を活用し加工を行なった産学連携商品「ナッツロール」です。
主に海外輸送等で使用している、リサイクル100％の環境に優しい素材である強化ダンボール（ハイプルエース）の特性を活用し、心身の発達に障害のある方（主に児童）向けのバランス感覚遊具を商品化しました。

本商品は自分で組み立てることができ、障害のある子供たちがロッキングチェア（揺り椅子）のように揺らして遊ぶことができます。商品名はピーナッツなどのナッツ類の形を連想させる形をしていることに由来しています。

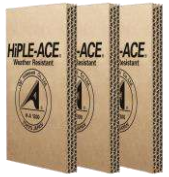
強化ダンボールの優位性（①軽くて非常に強い強度②優れた加工性③接着剤不要で自分で組み立てること・分解が可能④使用後は100％リサイクル可能な環境に優しい素材）を利用して、新たな可能性への挑戦として取り組んできました。

公立大学法人長野大学　前社会福祉学部長
繁成　剛先生

リハビリテーション工学、生活支援技術、工業デザインを専門とされ、発達障害や怪我をしてうまく身体を動かせない人々（障害者）が暮らしやすくなるような器具を長年にわたり開発されてきました。教授の持つこれまでのノウハウと当社のノウハウを融合させ、このたびの商品販売となりました。

地元大学との産学連携商品としてスタートしましたが上田市のふるさと納税返礼品としても登録され「産学官連携」でナッツロールのもつ製品特徴で社会貢献を始めています。

上田市ふるさと納税返礼品としても登録。さらなる普及と地域活性化に貢献



＊原材料はリサイクル100％可能な強化ダンボールを利用しています

初の福祉分野での受賞！

「第18回キッズデザイン賞」受賞！　新たな可能性に挑戦

2024年8月、ナッツロールが「第18回キッズデザイン賞」を受賞いたしました。
キッズデザイン賞は当社にとって初めての福祉分野における受賞となります。強化ダンボール（ハイプルエース）の新たな可能性への挑戦となる受賞であります。

受賞企業/団体名	コムパックシステム株式会社 公立大学法人長野大学
受賞作品	ナッツロール
部門	子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門

KIDS DESIGN AWARD 2024

＊長野大学学長へ受賞報告し次の展開へ向け激励をいただきました

■審査委員コメント
障がいのある子どもに感覚刺激をもたらすための遊具であるが、素材に強化段ボールを採用することで軽量化や安全性の向上に寄与している点に配慮を感じる。安定して揺れを楽しめるように各所のサイズや曲線をデザインしているが、それがナッツのような面白い意匠を生み出している。

■キッズデザイン賞とは
キッズデザイン賞は、「子供たちが安全に暮らす」「子供たちが歓声や創造性豊かに育つ」「子供たちを生み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設されました。
子ども用にデザインされたものはもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもや子育てに配慮されたデザインであればすべてが対象です。

＊またナッツロールは、上田商工会議所主催の令和5年度「うえだ ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」において【名工・匠部門】で大賞を受賞しております。

その他にも地域・社会への貢献度向上を重視し当社でできること、次世代への引継ぎ、そして新たな可能性を追求し様々な活動や取り組みを行なってきました。

Social contribution　社会貢献　地域貢献

新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止対策商品の開発

世界中に甚大な感染拡大を及ぼした新型コロナウイルス(COVID-19)。地域でいち早く環境に優しい素材で開発した「段ボール製感染防止デスク・パーテーション」の提供を開始。使用後はフィルムをはがしてもらうことでダンボールはリサイクル100％可能です。プラ製パーテーションと異なり使用後にリサイクルできることで環境負荷低減に大きく貢献でき購入者の方々から大変好評でした。本来ロスとなる部分も小物入れポケットなどの材料として有効活用し当社だけのオリジナルパーテーションです。

県立上田高校フィールドワーク事業への協力（4年連続）と長野大学学生、地域の環境研修会等における環境コミュニケーション活動

県立上田高校の1年生とSDGsや環境に関するフィールドワーク授業を当社にて今度まで4年連続行っています。来期も実施する予定です。また長野大学で環境について学んでいる学生達と、我々が次世代へ行うべき取組、新商品開発についての議論も行い未来ある若者達と連携をとり明るい豊かな社会を引き継ぐ学びの機会を得ています。
地域の環境研修会等において当社の事例発表、講師等での勉強会への参加も行い地域でのコミュニケーション活動に取り組んでいます。

2部門受賞

エコアクション21オブザイヤー2024

ソーシャル部門　金賞（環境大臣賞）

環境経営レポート部門　銀賞

エコアクション21オブザイヤー2021に続いて2度目の環境大臣賞

環境負荷低減に貢献。紙を利用した包装用途以外での新用途商品開発への取組み

リサイクル100％可能な段ボールやホワイトパネルの持つ様々な特性をを活用して包装材以外での新用途での商品展開を進めています。時には他業界の方々との協業で新たな可能性の発見にも繋がっています。思い通りのデザイン、形状につくりあげることができ使用後はリサイクル可能で環境負荷低減に大きく貢献しています。毎年新たな商品展開につながっています。

地域のキッズ向けイベントへの参加

環境に優しいダンボールを活用しリサイクルの重要性や可能性をＰＲするとともに子供たちがモノづくりに興味を持てるよう各種イベントに協力しています。
遊びやワークショップを通じて、地域企業としてのPRや環境問題についての活動貢献できることは当社の理念とも相通じ将来を担っていく地域の子どもたちのために今後も積極的にかかわっていきます。

これまでの様々な環境活動や社会への取組み、また外部の方たちとのコミュニケーション活動が評価され2025年2月、エコアクション２１オブザイヤー2024でダブル受賞をいたしました

Environmental laws and regulations

環境関連法規制

本年度、自社でチェックした結果、違反・訴訟はありませんでした。
また関係当局よりの違反などの指摘、近隣からの苦情等は過去3年間ありません。

法規制	遵守状況
環境基本法	○
廃棄物処理法	○
下水道法	○
振動規制法	○
騒音規正法	○
消防法	○
化学物質管理促進法(PRTR法)	○
家電リサイクル法	○
小型家電リサイクル法	○
フロン排出抑制法	○
上田市環境基本条例	○
上田市廃棄物処理条例	○
上田市下水道条例	○

環境関連法規チェックや内部監査も毎年実施しており継続的な法遵守、リスクの低減に努めています

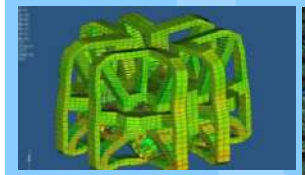
Emergency situation

緊急事態の想定内容として２つのリスクを想定し毎年確認訓練を実施しています

緊急事態　想定内容
①少量危険物取扱貯蔵所から灯油が流出して隣接用水路に流入する恐れ
②インク洗浄廃液処理設備の薬注ポンプ等の異常により処理不十分な排水が公共下水路へ流出する恐れ

異常発生 → 設備停止/回収 → 状況確認 → 報告 → 外部流出量に応じた対応

当社では影響度の大きな緊急事態を2つ想定し毎年発生時の取組み確認を行っております。
万が一緊急事態が発生した際には初期動作の適正に努め最小限の被害に抑えてまいります。



NEWS

2025年 公式Webサイトをリニューアルしました

環境/サステナビリティに関する特設ページも追加しています。今後それらに関する様々な情報をアップしていく予定です。

コムパックシステム

スマートフォンはこちらから↓

クリック！

☑取り扱い商品詳細が知りたい
☑包装関連の情報を知りたい
☑どんな会社か詳しく知りたい
☑環境/SDGsへの取り組みを詳しく知りたい
☑リクルート情報を詳しく知りたい

☆当社が取り組んでいる環境活動やSDGsに関する外部サイトのご紹介　～参考にご覧下さい～

外部サイトはこちら↓

長野県SDGs推進企業情報サイトに当社が事例紹介の1社として紹介されています。エコアクション21と関係させたSDGsの取り組みが紹介がされています。

外部サイトはこちら↓

エコアクション21　長野地域事務局である長野県産業環境保全協会のＨＰ内「事業者紹介」において当社を紹介していただいております。

外部サイトはこちら↓

一般財団法人 持続性推進機構(IPSuS)/環境省発行の ≪エコアクション21のすすめ『未来につながる』～EA21企業のトップに聞く～≫　に当社が紹介されています

代表者による全体評価と見直し

社会・地域への貢献と企業の持続的発展を目指している当社にとっての中期環境目標の2年目が終了しました。
結果として管理項目25目標のうち、達成は14項目、未達成が11項目となり、その中でも特に大きな反省すべき点として、重要な目標である「破損品・クレーム件数の減少」が達成できなかったことが挙げられます。昨年に対して大幅増加となりそれに関わる環境負荷が増加したことに加え、お客様からの信用信頼を失墜させることにつながる、とても残念な結果となってしまいました。来期以降、今期の反省と発生原因をもとに再発防止の徹底に取り組むよう指導教育したところであります。多くの発生要因が単純な業務ミス、取扱い上の破損であることから、それぞれの社員の日々の意識問題が重要であり、リーダーを中心に繰り返し啓蒙・教育活動を推進し来期への重要課題としてすすめてまいります。
一方で、最も重要ＫＰＩである二酸化炭素の排出量減少目標（kg-co2/百万円）については、昨年に引き続き減少、目標達成できたことは全社員の取組の成果であると評価できます。特に排出の多くを占める両工場の電力削減効果が大きく、販売量・生産量は増加しているにも関わらず削減結果が出せたことは、エコアクション２１の取組をしてきたこれまでの継続的な効果であると評価できます。エネルギーコストも年々高騰しているにも関わらず現状維持できていることは、大きなコスト削減効果でもあり、最終目標である付加価値の確保にも大きく貢献できています。工場部門、間接・営業部門のそれぞれの立場でやるべき活動を地道に行い成果・効果をだせていることに全社員に感謝するとともにその成果を今後の企業発展の原資として有効に活用していきたいと考えております。加えてさらに評価できる取り組みとして、今期より年間を通じて実施した大きな環境負荷削減対策となりますが、発砲ＰＥであるサンテックフォームロスや端材で発生した部材を圧縮・減容し、それをＰＥ袋の原料として再利用し始めたことがあげられます。

自社単独での活動のみでなく周りの方たちとの連携でより大きな成果を目指す

これまでの産業廃棄物処理からサーキュラーエコノミーにつながる原料としての再利用活動に切り替え、環境負荷低減、持続可能な社会づくりに大きくつながるこの取り組みを安定的に継続してまいります。これは当社のみでは不可能であり他社との連携によりできた環境ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの一環としての取り組み成果であります。このような単独での取り組みのみでなく、お互いの活動を組み合わせた共同での取組により、今後のより大きな成果を目指していきたいと考えております。あわせて同様の取組が他にも展開できないかを模索してまいります。

昨年度より新中期目標として、より実務業務に関連させた詳細な目標設定をし活動をすすめていますが、活動を進める中で現時点での当社の弱点も浮き彫りとなってきています。これは来期以降に強化すべき点がはっきりとしてきたという意味合いとして前向きにとらえることで、全社共有し改善策をとるように指導教育・改善策を練り実行し企業の力を向上させてまいります。ＰＤＣＡを定期的に見直していくことで自社の課題を浮き彫りにし、これらの環境目標の達成に向けて取り組み貢献度を上げてまいります。環境保全に取り組みながら自社の付加価値も同時に向上させていくための環境目標に引き続き取り組みます。

持続可能な社会づくりと企業発展につなげるため中期計画達成に向け全社員で取り組む

当社は現在「地域貢献と持続可能な社会づくり」を理念に据え、あらゆる環境活動と販売（開発）活動を強力に推し進め、それらを自社の強み・特徴とするべく活動を行ってまいりました。それらをまとめた環境経営レポートが今年度のエコアクション２１オブザイヤーでソーシャル部門で金賞（環境大臣賞）、環境経営レポート部門で銀賞のダブル受賞できたことはとても大きな喜びであるとともに、さらなる地域への恩返しと持続可能な社会づくりへのモチベーションＵＰにつながるものでありました。理念達成のための一つのツールとしてエコアクション２１の活動を推進、レベルアップしていくことは社員全員の共有事項であり、今後もこの受賞に恥じない活動を皆で進めていく決意であります。

当社がこれまで75年にわたり事業継続できたことは、徹底した地場産業企業（地域で生産される製品に加え地域で収穫される青果物等のダンボール）として地域と地域の方々に永年にわたりお世話になってきたからであります。当社が育てられたその地域の環境を守り、大切な地域経済活動を守ること、そして持続可能な社会に貢献していくことは現役世代の我々の責務であると考えています。この理念を忘れることなく引き続き全社活動としてエコアクション21を当社の重要活動ツールとして発展させていく所存です。

また今年度は地元大学と共同開発をおこなった環境に優しい強化ダンボールを活用したナッツロールが「第18回キッズデザイン賞」も初受賞し、全く異なる分野（福祉関連分野）で微力ながら社会貢献できたことは、アライアンスの有効性を実感でき1社では不可能な取り組みを同じ理念を持った方々と共に新たな可能性の拡大につなげられました。

エコアクション２１の基本であるＰDCAサイクルを回し続けることで各取り組みのパフォーマンス向上に取り組みます。

3か年ごとの新中期経営計画も来期よりスタートさせ付加価値向上に努めてまいります。

76～78期
新中期経営計画

74～76期
環境目標

将来あるべき姿

環境負荷削減にKPI目標もリンクし付加価値向上につなげる

今期以上のさらなるエコアクション２１推進活動を社員皆に期待するとともに、引き続きの関係各所 皆さまからのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

代表取締役社長　鈴木由彦

75th Environmental Report

ダンボール／総合包装
コムパックシステム株式会社
COMPACK SYSTEM CO.,LTD

本社：長野県上田市秋和940
TEL 0268-24-9500

URL https://compack.co.jp/

2025.6 発行（年1回発行）